

令和 6 年度

新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)

「未来創造学科」

研究実施報告書

第 3 次

和歌山県立串本古座高等学校

I. 研究開発の概要

(1) 3年間の改革事業の振り返り	1
①本改革事業の実施に向けての思い	1
②本改革事業における取組の目的・目標	1
③本改革事業計画の途中からの変更について	2
④本改革事業の計画及びその歩みについて	3
(2) 新学科の構成	4
(3) ロジックモデルと実施状況	4
(4) 教育課程	7
(5) 事業推進体制	9
①コンソーシアム	9
②運営指導委員会	14
③地域協議会	16
④コーディネーター	17
⑤校内委員会（未来創造委員会）	18

II. 普通科改革に係る本年度の活動

(1) 新学科の活動概要	19
(2) 新学科における新設学校設定科目の実施状況	19
①宇宙探究基礎	19
②地域探究	21
(3) コンソーシアムとの協働授業	23
(4) 総合的な探究の時間の改革	25
①各学年の活動	25
②新しい探究発表会	27
(5) 授業改革を目指す取組	28
①「Try Report」の発行と校内実践事例の共有	28
②ルーブリックの構築と活用	30
③国際交流の取組	31
(6) 改革推進校による本校訪問 交流	33
(7) 地域とつながる部活動	35
(8) 改革を支える地域協議会と校内公設塾（くろしお塾）	37
(9) 広報活動	40

III. 活動の評価と今後の展望

(1) 学校魅力化評価アンケートの結果分析と生徒の変容	42
(2) 今後の展望	45

I. 研究開発の概要

(1) 3年間の改革事業の振り返り

① 本改革事業の実施に向けての思い

和歌山県立串本古座高等学校は、本州の最南端に位置する串本町内にある。本校は、南紀熊野ジオパークをはじめとする貴重な自然や、エルトゥール号の遭難を皮切りとするトルコとの交友関係など、多くの価値ある教育資源に恵まれた学校である。また、同町内では近畿大学の水産試験場や養殖場など、持続可能な社会に欠かせない施設があるほか、民間のロケット発射場「スペースポート紀伊」の整備も進み、令和6年3月13日に初号機、令和6年12月18日には2号機が打ち上げられた。この先の2020年代半ばには年間20機を打ち上げるという目標も立てられ、今後、串本町内が最先端の宇宙産業の町となる可能性を秘めている。

一方で、串本・古座川地域は、人口減少や少子高齢化、地域産業の衰退など、多くの深刻な問題を抱えている。その中で成長する子どもたちは、容易に自然と触れあえる環境の中で実践的な知識を身につけることができる反面、小さくまとまった集団や社会で過ごしているため、より広い視点から地域や世界をとらえ、そこに暮らす人々に目を向け、自ら改革していこうとする姿勢が育ちにくいように見受けられる。

串本・古座川地域の高校生にとって喫緊の課題は、AI産業がますます発達し、今まで以上に他地域をはじめとする広い世界とつながっていく中で、自己の在り方や地域の在り方を客観的な視点から再確認し、目標や課題を立て、他者と協働して現状をよりよい方向へと変えていこうとする態度を養うことである。その点において、串本・古座川地域における貴重な自然や文化を探究することは、地域が持つ魅力の再認識と、培ってきた文化の継承、新たな形での活用を考察する一助となる。それは、地域への愛着を育むとともに、自らの在り方・生き方を考え、確固たる世界観や価値観を確立することにつながると思う。

また、世界的に最先端の宇宙施設や、確かな実績を積んでいる試験場など、未来を担っていく技術や産業の一端垣間見ることは、主体的に課題に取り組み変化に柔軟に対応する力、将来への展望など、これからの社会に必要な能力の獲得につながる。さらに、特に宇宙教育を行う中では、外部の有識者による遠隔授業や、大学や研究機関の公開授業の活用が見込まれ、新たな産業や常識の開拓に挑む人々に接することができると思われる。地域の未来を担う高校生にとって、既存の環境に甘んじることなく、自らの手で変化を起こそうとする人々との交流は、単なる知識・技能の修得以上の効果が期待できる。

以上のことから、国内でも稀にみる、様々な要素を併せもつ複合的なフィールドを活用した、教科横断的かつ探究的な学びを実践し、地域や社会の課題に対応する力を育成するため、本校において、新たなカリキュラムや教育方法の研究開発に取り組むために本改革事業を実施することとした。

② 本改革事業における取組の目的・目標

地域の様々な教育資源を活用し、自らの在り方・生き方としっかり向き合い、確固たる世界観や価値観、変化に柔軟に対応していく力、将来への展望等を併せもつ、Society 5.0を生き抜

くために必要な力を育成することを目的としている。

また、その実現のために、本校が所在する串本・古座川地域にある、貴重な自然や文化、世界的に最先端の宇宙施設、少子高齢化などの社会問題等、多様で複合的なフィールドを生かし、地域と連携しながら、宇宙や科学を探究する意欲や、地域の課題を解決しようとする志を育むことができる教育課程の編成を目標とした。

③ 本改革事業計画の途中からの変更について

令和3年度末の本事業に応募する段階では、地域社会学科（未来創造学科）のコースを設定するにあたり地域資源を採り入れた教育に重きを置き、宇宙探究コースと地域探究コースの二方面から、地域における多くの教育資源を活用した革新的で特化型の教育内容や教育方法を展開する予定であった。

宇宙教育においては、宇宙産業関連企業や、JAXA、大学の研究機関等と連携し、探究的な学びを行うことで、科学への興味、関心や未知の物事への探究意欲を養うことを目的としている。また、地域教育においては、地場産業や地域の文化、自然遺産を教育材料とし、国内外の他地域の課題との関連をも学ぶことで、課題解決意識を持って地域の魅力や資源の保全、活用に取り組むことのできる人材の育成を目指している。いずれも最も力を入れて取り組む分野はコースの目的に応じたものとなり、在籍する生徒の探究意欲もその目的に沿ったものとなる。

しかしながら、宇宙と地域の学習に特化した2コースだけでは、これからの教育に求められる高大連携教育においても重要な生涯にわたる探究課題を設定する幅が狭められてしまう恐れがある。かといって、普通科として従来通りの科目のみで学習に取り組んだ場合、宇宙の教育や地域の教育資源に触れる機会を減らしてしまうこととなり、これもまた生徒の可能性や能力の屈曲につながりかねない。こうした問題を解決するために、宇宙教育のみ、地域教育のみに限定することなく地域の教育資源を活用し、先進的なカリキュラムのもと、地域や人文、社会、自然科学の全ての領域における学問的素養を獲得できるコースを設ける必要があると考え、あらたに文理探究コースを設置することとした。

また、現状の宇宙探究コースや地域探究コースだけでは、本校やこの地域の持つ教育資源を十分に活用しきれないという点も文理探究コース設定の理由の一つである。本校の特色として、地域柄とも言える密度の濃い国際交流が挙げられる。前身である串本高校はアメリカのヘメット高校と、古座高校はカナダのヴァニア高校とそれぞれ姉妹校提携を結んでおり、串本古座高校に統合されたあとも関係は継続している。また、新たにトルコのイスタンブール高校とも姉妹校となり、生徒同士のオンラインでの交流も行っている。串本町そのものが、1890年のエルトゥールル号の海難事故以来、トルコと日本の架け橋となっていることもあり、本校の生徒たちも、トルコとの文化交流事業に参加し、トルコ大使館との交流機会を得た。このようなトルコとの密な関係を通じて、海外に目を向ける生徒も多くいる。三方を海に囲まれ、海外に向かって開かれたこの地域において、生徒たちの国際観を育て、種々の国際大会にも参加できるように語学力や多元的な視点を培うためには、地域の貴重な国際資源を余すところなく活用する必要がある。よって、当初設定していた2コースに加え、国際交流の機会を教育資源として有効活用することのできる文理探究コースを設置することとした。

以上のことから、地域社会学科内に文理探究コースを設置することにより、地域や日本、ひいては国際社会における幅広い諸課題を探究する意欲を持ち、より良い社会を牽引していくことができる人材を育成できると考え、新たな文理探究コースを加えた3つのコースの設定に至り、令和4年度の途中からカリキュラムや教育方法の研究開発が始まった。

④ 本改革事業の計画及びその歩みについて

本校においては、令和6年度からの新たな普通科の設置に向けて、段階的に取組を進めていくこととした。令和4年度、令和5年度の2年間では、学科の枠組み、カリキュラム編成、学校設定教科・科目の内容等の調査研究を行うとともに、各年度の入学生から実施できる取組については、先行して行うように計画した。

令和4年度・5年度入学生は、「総合的な探究の時間」を活用し、地域や社会の魅力や課題についての地域探究活動を行うとともに、宇宙関連学習として講演会やシンポジウムへの参加に取り組むこととした。また、大学教員や関連企業の技術者等による特別講義やワークショップも活用しながら、課題解決に必要な基本的な知識や技能、探究手法を身に付けることができる取組を行うこととした。さらに、2、3年次では、宇宙や地域のことについて更に学びを進め、それぞれが課題とするテーマを決めて探究活動を行うように計画した（Ⅱ（4）で詳報）。

また、グローバルコース等においてすでに開設している地域と連携した特色ある学校設定科目をさらに充実させるとともに、令和5年度入学生からは、新たな普通科の設置に先行する形で、2年次において、宇宙に関する学校設定科目を新設した。

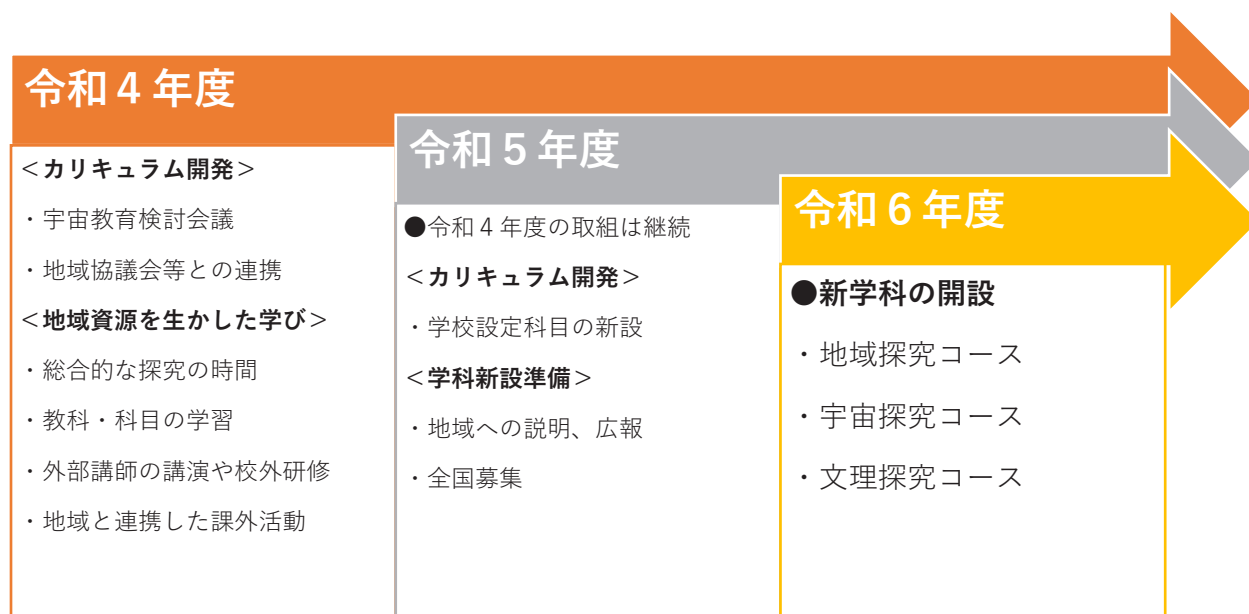


図1 普通科改革支援事業のスケジュール

図 1 のように、令和 4 年度、5 年度は地域の教育資源を生かした、教科横断的で探究的な学校設定教科・科目を順次開設、実践し、また学校設定科目以外の教科・科目や学校行事等の特別活動においても、地域資源・地域人材を取り入れたカリキュラムの開発を行い、そして最終的に、令和 6 年度入学生から、新たな普通科として募集を行い、新学科としてカリキュラムを実践していくように計画した。

実際は、この計画よりも先行してカリキュラム開発が進行（詳しくは報告書【第 2 次】を参照）した。令和 4 年度中に学科の枠組みやカリキュラム編成、担当する教科、シラバスの策定等、ほぼすべてを確定することができた。さらに、外部講師の講演会や新学科設置にかかる施設設備等も、県教育委員会に指導助言をいただきながら徐々に整備を進めることができた。

また、具体的な授業展開の場面においては、宇宙教育検討会議兼コンソーシアムにおいて、多くの有識者の先生方に授業充実のために引き続きご指導いただいているところである。このような経過で、比較的順調に新学科開設に向けての準備は進行してきたと考えられる。そのために、令和 5 年度途中からではあるが、令和 6 年度の新学科の開設にあたり本改革事業の新たな柱に設定したのが、授業改革への取組である（Ⅱ（５）で詳報）。

（２）新学科の構成

本校は、本年度（令和 6 年度）より、普通科を「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」の 3 つのコースからなる「未来創造学科」に学科改編し、新しい学校体制をスタートさせた。昨年度までは、学校魅力化プロジェクト構想の中で、普通科に「クリエイティブコース」「グローバルコース」「アドバンストコース」の 3 コースを設置し、生徒は入学後に希望調査の上、いずれかのコースを選択して所属するという体制で行ってきた。このたびの学科改編で、地元にはロケット発射場が設置された地域の特性を生かし、新しく「宇宙探究コース」を開設するのに合わせて、他のコースも精査統合し、上記 3 コースからなる新学科として生まれ変わった。併せて、この変革の機会に教育のソフト的な部分も見直し、学校教育目標やスクールポリシー等を再確認しながら、より質の高い魅力ある学校に生まれ変わろうとしたのが、本校の普通科改革である。

表 1 に、昨年度までの学校システムに所属する現高 2、3 年生を含めた現在の在籍状況を示す。

（３）ロジックモデルと実施状況

図 2 のロジックモデルは、本校の普通科改革が目指す行程図として、令和 4 年度に作成されたものである。以来、本事業の大きな流れとしては、これに従ってきた。

また、このロジックモデルに基づく進捗状況の点検は年度ごとに行い、その都度、評価と修正を行ってきた。本報告書を執筆している現段階（令和 6 年度末）までの進捗状況を表したものが図 3 である。

課程	学科		1 年	2 年	3 年	計
全 日 制	未来創造学科	宇宙探究コース	7			80
		文理探究コース	29			
		地域探究コース	44			
	普通科	クリエイティブコース		27	18	129
		グローバルコース		24	15	
		アドバンストコース		28	17	
合 計						209

表 1 令和 6 年度在籍状況

和歌山県立串本古座高等学校

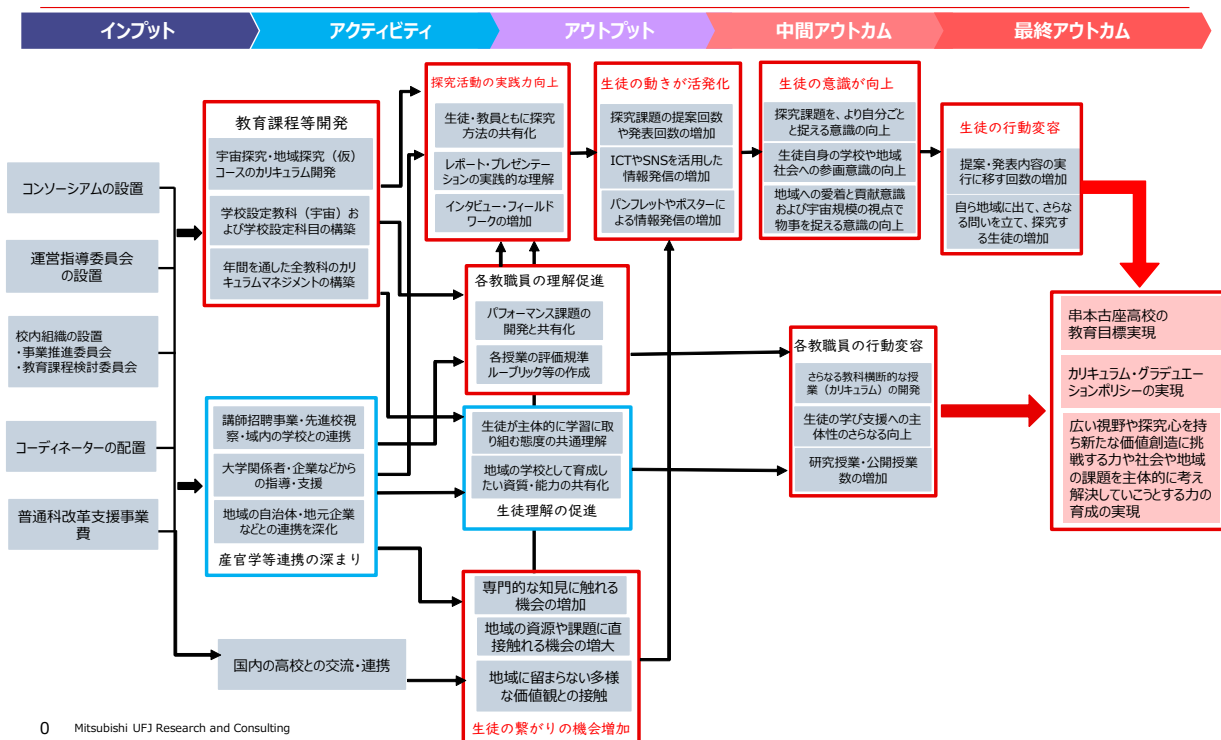


図 2 本校のロジックモデル

令和6年度末 ロジックモデルの進捗状況の評価		
	ロジックモデル	推進状況の評価
令和4年度実施	インプット	コンソーシアムの設置
		運営指導委員会の設置
		校内組織の設置
		事業推進委員会
		教育課程検討委員会
		コーディネーターの配置
		普通科改革支援事業費
令和5年度実施	アクティビティ	教育課程等開発
		宇宙探究・地域探究コースのカリキュラム開発
		学校設定科目（宇宙）および学校設定科目の構築
		年間を通した全教科のカリキュラムマネジメントの構築
		産官学等の連携の深まり
		講師招聘事業・先進校視察・域内の学校との連携
		大学関係者・企業などからの指導・支援
	アウトプット	地域の自治体・地元企業などとの連携を深化
		国内の高校との交流・連携
		探究活動の実践力向上
		生徒・教員ともに探究方法の共有化
		レポート・プレゼンテーションの実践的な理解
		インタビュー・フィールドワークの増加
		各教職員の理解促進
		パフォーマンス課題の開発と共有化
		各授業の評価基準・ルーブリック等の作成
令和6年度実施	アウトプット	生徒理解の促進
		生徒が主体的に学習に取り組む態度の共通理解
		地域の学校として育成したい資質・能力の共有化
		生徒の繋がりへの機会増加
		専門的な知見に触れる機会の増加
		地域の資源や課題に直接触れる機会の増大
		地域に止まらない多様な価値観との接触
	中間アウトカム	生徒の動きが活発化
		探究課題の提案回数や発表回数の増加
		I C T や S N S を活用した情報発信の増加
		パンフレットやポスターによる情報発信の増加
		生徒の意識が向上
		探究課題を、より自分ごとと捉える意識の向上
		生徒自身の学校や地域社会への参画意識の向上
		地域への愛着と貢献意識および宇宙規模の視点で物事を捉える意識の向上
令和6年度末の評価方針	最終アウトカム	各教職員の行動変容
		さらなる教科横断的な授業（カリキュラム）の開発
		生徒の学び支援への主体性のさらなる向上
		研究授業・公開授業数の増加
		生徒の行動変容
		提案・発表内容の実行に移す回数の増加
		自ら地域に出て、さらなる問いを立て、探究する生徒の増加
		串本古座高校の教育目標の実現
		カリキュラム・グラデュエーションポリシーの実現
		広い視野や探究心を持ち新たな価値創造に挑戦する力や社会や地域の課題を主体的に考え解決していこうとする力の育成の実現

図3 令和6年度末の進捗状況

図 3 に示したとおり、普通科改革に関する新コースの設置や新科目の開設など、ハード面の整備は予定通りに進んでいる。今年度は、実際の生徒を対象とした教育活動のソフト面が肉付けされたが、その成果、すなわち生徒及び教員にどのような変容をもたらしたかは、きわめて重要な検討項目である。本校では、「学校魅力化評価アンケート」などを元に、深い点検を精力的に行った。このことについては、本報告「Ⅲ. 活動の評価と今後の展望」で詳しく述べる。

（４）教育課程

図 4 に「未来創造学科」３コースの授業展開表を示す。それぞれのコースで魅力ある学校設定科目を多数設けているのが、本校教育課程の特徴である。

学校設定科目の中には、平成 28 年度から始まった学校魅力化プロジェクトの流れの中ですでに行われてきた科目もいくつか含まれるが、新学科の開設にあたり、すべてこれまでの成果を元に見直し、科目数や内容を精査して発展的に取り入れた。また「宇宙探究コース」を新たに創設したのに伴い、宇宙関連の科目を多数設けたり、地域の豊富な教育資源を活用し、探究活動に取り入れた新しい学校設定科目を設けたりした。

「宇宙探究コース」の生徒は、高 1 ～ 3 年生で最大 6 科目 11 単位（一部選択制）を履修する。いずれも宇宙に関連する実習及び探究的授業であり、生徒達は自分たちの興味・関心に従って、宇宙に関連する様々な技術や知識を身につけ掘り下げる展開となっている。また、一部の宇宙関連科目は「地域探究コース」の生徒達も高 2、3 年生で選択科目として受講でき、宇宙や天文に関心のある生徒達が、豊かな地域資源やロケット発射場を持つ地域特性を生かしながら宇宙を切り口として様々なことを学べるシステムとしている。

宇宙科目 地域科目 その他の学校設定科目

学年	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	宇宙探究	現代の 国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	英語 コミュニケーションⅠ	化学基礎	物理基礎	体育	美術Ⅰ	家庭基礎	保健	宇宙探究基礎	総合的な探究の時間	L・H・R																
	生物基礎									地域探究																							
	文理探究	地域探究	現代の 国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	科学と 人間生活	論理・ 表現Ⅰ	体育	英語 コミュニケーションⅠ	家庭基礎	保健	地域探究	L・H・R																	

学年	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
2年	宇宙探究	古典探究			公共		数学Ⅱ			数学B		英語 コミュニケーションⅡ		地学基礎		化学		物理		体育		保健		情報Ⅰ		宇宙 ビジネス探究	宇宙観測 と利活用	宇宙航空 工学		総合的な探究の時間		LHR	
	文理探究																										実用英語						現代文 探究
	地域探究	文学国語			公共		数学Ⅱ			日本史探究 世界史探究 地理探究		生物基礎		英語 コミュニケーションⅡ		音楽総合 美術総合 書道総合 情報処理		体育		情報Ⅰ		保健	マリン スポーツ	南紀 デュアル	フード デザイン	紀伊半島 探究α	情報 デザイン	宇宙探究 基礎	介護福祉基礎				LHR

学年	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
3年	宇宙探究	論理国語		政治・経済		数学Ⅲ		数学Ⅲ		数学Ⅲ		数学Ⅲ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R			
	文理探究																																			
	地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理				衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解		総合的な探究の時間	L・H・R
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と活用		宇宙と国際理解			
文理探究																																				
地域探究	論理国語		国語表現		日本史探究 地理探究 世界史探究		政治・経済		実践数学		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		英語 コミュニケーションⅢ		情報探究		化学		物理		衛星データ分析と					

図4 授業展開表（令和6年度 未来創造学科 入学生）

（５）事業推進体制

本事業を推進、管理するにあたり、次のような組織、人員を設けている。

- ①コンソーシアム
- ②運営指導委員会
- ③地域協議会
- ④コーディネーター
- ⑤校内委員会（未来創造委員会）

それぞれの詳細を次に記す。

①コンソーシアム

改革事業を進めるために、県内外の高等教育機関や企業等の有識者を委員としたコンソーシアムを構成した。本校の改革事業のうち「宇宙探究コース」の開設は、全国的にも前例のない新しい取組なので、コンソーシアム委員は「宇宙」に力点が置かれて構成されている。昨年度までは宇宙探究コースの新設に関する準備検討を行ってきたが、本年度は新学科への切り替えとともに宇宙探究コースの活動が始まったので、その状況報告や運営に関して助言や評価をいただき、また一部の委員には宇宙専門家の実働協力として特別講座※を行っていただいた（※はⅡ（３）で詳報）。

所属・役職等	氏名
東京大学大学院工学系研究科教授（航空宇宙工学）	中須賀 真一
スペースワン株式会社 取締役	遠 藤 守
Space BD 株式会社 代表取締役 社長	永崎 将利
宇宙航空研究開発機構 研究開発部門 第一研究ユニット 研究領域主幹	河本 聡美
奈良県立大学 学長	尾久土 正己
和歌山大学教育学部 教職大学院 教授	富田 晃彦
串本古座高等学校地域協議会 会長（串本町長）	田嶋 勝正

表２ コンソーシアム委員

・コンソーシアム会議について

過去２年は学期ごとに年３回行ってきたが、本年度は２学期と３学期の２回の実施とした。次に、それぞれの会議の内容を記す。

令和 6 年度第 1 回コンソーシアム会議（兼宇宙教育検討会議）

- ・日時 令和 6 年 10 月 21 日（月） 15:00～17:00 Zoom によるオンライン開催
- ・出席者 コンソーシアム：遠藤委員、尾久土委員、田嶋委員、富田委員、永崎委員、中須賀委員
本校関係者：校長、教頭、関係教諭、コーディネーター、宇宙探究コース生徒
その他：和歌山県教育委員会職員

・議事

最初に、年度当初から会議時点までの普通科改革に関する本校の活動を報告し、委員からの質問、意見に答えた。その後、本会議の主要案件として、「宇宙探究コース生徒紹介及びコンソーシアム委員との意見交換」を行った。

委員の方々は、昨年度まで宇宙探究コース開設に深く関わってきた経緯から、今年度初めて入学した「宇宙探究コース」の生徒達がどんな生徒たちであるか、どのような生活ぶりかに関心を持っておられ、また生徒達により充実した高校生活を過ごせるよう助言や提案を与える狙いで、この「生徒とコンソーシアム委員との意見交換」の場を設けた。

生徒達は事前に「自己紹介」や「委員に質問したいこと」を書き、当日はその資料を元に委員とオンラインで意見交換をした。そのやりとりは示唆に富んでいて、高校生には大いに参考になるものであった。そこで、会議後に文字資料として書き起こし、再度関係生徒に配布した。その一部を下に記す。

――（生徒）10 代 20 代の時にこれだけは経験した方がいいということがあったら教えてください。

（委員 A）私は高校 1 年のときに新しい仲間と日本海の隠岐の島に船で行ってテントを張って、キャンプをしながら海に潜って魚とか貝を取って食べて、という旅行をした。それがものすごく楽しかった。とにかく、自分がやりたいことは、勉強に限らずまずやってみること。やってから考えてもいい。私は最初から目標があってやったというより面白そうだな、これやってみようかと、そういう中で熱中できるものを見つけてきた。

（委員 B）僕は目標を立てて、それを実現するにはどうしたらいいかと徹底的に考え抜いて、それをやるっていうやり方でやってきた。例えば受験。やはり航空・宇宙をやりたいかったので、どうしてもあの大学に行きたい。そしたらそのためにどうすればいいか、塾とか行っていないので自分で考えて、どうすれば成績が上がって合格するかを相当練って、それを実現すべく相当頑張った。やはり高校時代には、何かあることを実現するためにどうやればできるかを徹底的に考えて、それに向かって努力する。それでうまくいった時の喜びはとても素晴らしい。

（委員 C）目の前にある面白そうなことをとにかくやってみて、面白くなかったらやめて、次々とチャレンジしている中で、うまくいったり、自分に合ったものが見つかっていったりする。そういう小さな成功をいっぱいやること、つまりいろいろチャレンジしてみるっていうこと。

それからこれは高校の間だけではないけれども、本を読んでほしい。簡単な本でもいいから本を読む。好きな分野だけではなく、自分とはあまり関係ないような分野の本も、若

いうちに読んでおく。それは必ず将来の大事な参考になる。

(委員 D) 君たちは進路の選択と配偶者の選択、つまり自分の生き方の選択が人生の前半に集中している。だけど、簡単に妥協しないこと。なんとなれば柔軟に考えてもいいが、やはり自分としては大きな目標を立ててそこに向かって努力する。いよいよとなれば柔軟に考えればいいが、やっぱり高校生としてはそれに向かってしっかり勉強したい。で、好きな人もそう簡単に諦められない。だから高校生らしく暴れてみて、志望校と好きな人だけは妥協しない。それぐらいでいい。

(委員 E) 何でもいいから成功体験を持ってほしい。成功体験がいろんな場面で自分を信じてあと一歩踏み出す勇気を与えてくれる。もう一歩踏み出せるかどうかは大きな差で、ほとんどの人はそこで踏み出せない。だから一歩を踏み出した人にはいろいろなチャンスが来る。ではその踏み出す勇気はどこからくるかというと、やっぱりこれは過去の成功体験、自分はできるぞと信じられる体験があること。で、その体験はどうやればできるかというと、やはり自分の足がすくむような怖い場面で、勇気を出してぶつかってみる。そしてそれがうまくいくと、自分を褒めてやりたいみたいな気持ちがじわっと湧いてくる。それが次のチャレンジの勇気を生む。だからこれは騙されたと思ってでも、今までだったら踏み出さずにためらっていた場面で今度は思い切ってやってほしい。それは将来すごく大きな差になるはず。

―― (生徒) 委員の皆さんは今、宇宙に関する仕事をされていますが、そのきっかけは何ですか？

(委員 B) やはり小さい頃アポロを見たこと。もともと飛行機が大好きで、飛行機か宇宙か、どっちに行こうかっていうことでまあ両方ある大学を受けることにしたけど、やはり小さい時アポロを見て、鳥肌が立つほど感動した経験は大きい。アポロが月から帰る時、地球の大気に入る角度がものすごく微妙な角度じゃないとダメで、確か $5.7^{\circ} \sim 7.2^{\circ}$ くらい。 1.5° くらいの幅しか許容範囲がなくて、これより深く入ると空気抵抗で加速度が大きくて中の人が失神する。薄く入りすぎると今度は空気に弾かれて帰ってこれなくなる。つまり大気に入るのはものすごく大変だと8歳の時に親父から教えてもらってすごい世界があるなと。その怖さと凄さと技術にものすごく感動したというのも一つのきっかけ。

(委員 C) 高校に入る前に彗星を見ようとしたこと。高校入試の直前、3月5日に新聞の夕刊一面に今世紀最大の彗星、ウエスト彗星がやってきたという記事があった。見える時間と見方も載っているので、次の日、朝5時ぐらいに一人早起きをして、郊外の川の堤防に立って東の空を眺めてみた。晴れていて星座の星はきれいに見えるけど、彗星は見えない。新聞にはきれいな彗星の写真が載っているのに見えない。それでおかしいなと思いながら次の日もまた早起きを試みたけど見えない。そして高校に入ると天文部があって、勧誘している人たちに「天文部に入れば彗星は見えますか？」って聞いたら、「もちろん」と言われて入ることにした。これが天文に進むきっかけ。そういう人との出会いとか現象との出会いとか、一期一会のような出来事とその人の将来を左右するというものもある。

(委員 D) 私は小さい頃から天文や宇宙が好きで、そういう分野の仕事ができたのは本当に運が

よかった。たくさんの人との出会いやいろんな経験があって今がある。本当に幸運が半分以上だと感謝している。一つ印象に残ることを言えば、私も小学生か中学生の頃、当時対立していたアメリカ合衆国とソビエト連邦が、宇宙でそれぞれの国の宇宙船をドッキングさせるというニュースがあった。人類が力を振り絞って届こうとしているその場所は、いろんな人間を結びつけて世界を一つにする力がある。スポーツや音楽もそうだけど、科学もすごい。大人になって仕事をするとき、自分のやりたい分野とか好きな分野をめざすのも大事だけど、社会に貢献するという思いも大事。宇宙とか科学はそういう仕事でもあるなと気づいて感動したのもひとつのきっかけ。

(委員 E) (委員の後方壁に書かれた「一生青春」という筆書き文字を見せて) これが僕の人生のテーマ。今、独立してベンチャー企業の社長をしているけれど、自分が高校生とか大学生とか 20 代の頃には、将来独立してベンチャー企業を立ち上げようと思ったことなんて一度もなかった。高校生の時はテニスに夢中になっていて、大学はテニスで日本一の大学に行こうと一生懸命勉強して入ったけど、大学ではたいして活躍できなくて一回目標を失った。それで普通の、宇宙とも関係のない仕事に就いた。だけど、自分の中にはテニスに夢中になっていた頃、絶対みんなに勝てないと言われた試合に勝てた時の喜びとか、自分を誇らしく思えたりとか、そういう人生を送りたいという思いが残っていた。そんな中である時、独立するという選択があることに気がついた。自分で意思決定をして、言い訳のない人生を送りたい。日本から世界で活躍する経営者になりたいと考えて、ではそのテーマって何かと考えていたら、宇宙というテーマに出会えた。今 44 歳で、36 歳の時にこの会社のコンセプトを考えついた。36 年経ってからの出会い。他の委員のように、この道だと決めて進んでいく生き方もあるけれど、常にいろんな可能性はある。

(委員 A) 高校 3 年の後半は目指す大学に向けて無茶苦茶勉強したけど、そのときやりたかったのは飛行機をつくること。だから大学は航空学科に進んだ。大学院まで行って知識をつけたけれど、その頃、航空業界は超不況。いよいよ就職という 1975 年には、三菱重工とか、そういった航空大手がそろって航空部門で一人の採用もしない。航空分野以外なら採用もあったが、せっかくここまで来たのに、とためらっていたら、忘れもしない 9 月 9 日。JAXA の前身の宇宙開発事業団 NASDA がアメリカからの技術を導入して、人工衛星用の N ロケット一号機を打ち上げた。私は日本のロケットなんてまともに上がらないだろうと冷ややかに見ていたけれど、それが見事に上がった。9 月 9 日に。で、確認すると職員募集をしていて、願書の締切が 9 月いっぱい。飛行機はできないけど同じ飛び道具だし、新しい世界。まあいいかとちょっといい加減だけど、願書を出したら間に合って合格した。これも運だけど、それがターニングポイント。それまでずっと飛行機と思っていたけど、最後の最後でロケットに変わった。で、その後はずっとロケット人生。たくさん失敗もあったけど、やっぱりロケットが打ち上がった時の、やったぜっていう感覚がたまらない。

令和6年度第2回コンソーシアム会議（兼宇宙教育検討会議）

・日時 令和7年2月26日（水） 14:00～16:00 Zoom によるオンライン開催

・出席者 コンソーシアム：河本委員、田嶋委員、永崎委員、中須賀委員

本校関係者：校長、教頭、関係教諭、コーディネーター

その他：和歌山県教育委員会職員

・議事

藤島から本年度の宇宙探究コースに関わる活動報告（Ⅱ（2）①および（3）で詳報）があり、それをうけて各委員から以下のような意見や提案があった。

- ・ 本当によくやっている。これで入学希望者が増えないのは、広報が不十分だからではないか。
- ・ 保護者は受験や進路に関係あるかどうかで判断する傾向もあるが、今こうしてやっていることの教育的価値を第三者からも熱く伝えれば変わると思う。
- ・ 今やっている活動の一部、例えばロケット打ち上げ中継などを、外部の人とも一緒になって体験してもらうのもよいのでは。
- ・ カイロスの打ち上げを機に、ふるさと納税も大幅に増えた。それだけ全国から注目されているということ。町としても、寄付いただいたお金を有効に使って、宇宙に対する機運を盛り上げたり、高校を応援したりしていきたい。
- ・ 議論を整理すると2つあり、1つは今高校で行われているこの素晴らしい取組を、さらに高めていくためにどうすればいいか（宇宙教育の充実）。もう一つは、この素晴らしい活動をどう世間にアピールして人を増やしていくか（広報の充実）。
- ・ 広報の充実については、例えば東京で多くの人が集まる場所で、我々コンソーシアム委員から宇宙が教育にとっていかによい題材であるかを話した後、その実践例として、串本古座高校がこういう活動をして、実際にこんな成果を上げていることを紹介するような「宇宙教育シンポジウム」をやってみるのはどうか。場所としては crossU がよい。
- ・ 宇宙教育とは問題解決である。今の日本の教育は、知識をつけることに重きが置かれて、問題解決の姿勢を養う部分が欠けている。それに対して、宇宙にはありとあらゆる問題があるので、それと向き合うことは、問題解決の方法やしんどさ、おもしろさを学ぶことになる。
- ・ 全国には他にも宇宙教育を始めた高校がいくつかある。それぞれ素晴らしい教育をしているが、人集めでは苦労している。そんな高校が集まって、互いの活動を紹介したり交流を深める場になればいいのではないか。
- ・ 広報の充実についてはもう一つ、例えば夏に宇宙に関心のある子どもたちや大人を呼んで、一週間ぐらい宇宙学習体験などを行う合宿のようなものをやってみるのはどうか。
- ・ 串本町ではこの4月1日に宇宙体験施設 Sora-Miru がオープンする。修学旅行生を一つのターゲットとしているが、宇宙に関心ある子どもたちが個人で訪問しても、いろいろ楽しんで学べる展示などを充実させている。その中で、串本古座高校の取組を紹介したり、高校生と一緒に活動するような何かができるのではないか。
- ・ この夏にもまた缶サットの集中講義を串本でやるが、それもその合宿計画に入れてみたい。さらに夜、星を見たり、今串本古座高校でされているおもしろい活動を体験したりする企画というのはいかがでしょうか。

- ・カイロスの打ち上げとコラボできればなおよい。いろいろ宇宙を学んだ後、最後にロケットの打ち上げを見て帰れば感動する。
- ・串本町は今、カイロス 2 号機がとりあえず打ち上がったことで、ずいぶん盛り上がっている。いずれロケット打ち上げが成功して軌道に乗れば、それが生徒を増やす要因にもなると思う。
- ・潮岬は星がきれいで天体写真を取りに来る人も多い。そこで例えば、時間を決めてすべての電気を消す、ということをやってもよい。そんな企画もその合宿に入れていけたらいい。
- ・宇宙というに関心を持つ人が限られる傾向があるが、串本には豊かな自然や歴史ある名所がたくさんある。これも体験合宿の中に入れていけばいい。串本古座高校は宇宙だけではなく、素晴らしい自然や文化も相手にしている無二の学校だということもアピールすればよい。
- ・子どもが宇宙の体験をやっている間に、親は周辺の観光ができるツアーのような企画になったら、なお多くの人が来たいと思うだろう。
- ・では、**広報の充実**の一つについては、東京でシンポジウムをする、ということでもいいか。
集まりやすさからいえば、土曜の午後、早めに日程を決めれば、場所を押さえておく。直接参加やオンラインも含めてハイブリッドでやる。そしてもう一つの、夏の宇宙合宿のような企画は、今年は無理でも 1 年後 2 年後ぐらいを目標に進めていくのでどうか。
- ・**宇宙教育の充実**については、それぞれ専門委員からビジネスの基礎を教えたり、人工衛星やデブリを追跡して軌道を求める活動をするということでもよいか。
- ・ビジネスというと生徒はすぐにアプリや地域課題解決を考える傾向があるが、大事なのはお金のことであったり、いかに稼ぐかということもある。そのようなビジネスの基礎もきちんと考えさせたい。
- ・望遠鏡が使いこなせるなら、デブリとか人工衛星を望遠鏡で追尾したらおもしろい。北海道とか離れた場所と 2 地点で同時観測すれば、軌道を正確に求めることもできるのでおもしろい。
- ・屋上に設置計画のあるパラボラアンテナも活用して衛星を追跡すれば、さらにおもしろくなるだろう。
- ・地球観測データの解析をやるのもよい。今、ある IT 系会社とコラボして大学生向けの授業をやっているが、これを高校生向けにしたものを串本古座高校生を相手にやってみようと思う。
- ・問題解決の能力は、現在、和歌山県教育委員会も重視していて、各学校で探究的な学びを充実させていこうとしている。串本古座高校も、今後さらに力を入れて発展的な成果を導くことを期待している。

② 運営指導委員会

地域の学識経験者、関係行政機関の職員などで組織し、主に普通科改革に関わる学校教育全般の諸課題について、指導・助言をいただく会議である。メンバーの一部は、コンソーシアム委員も兼ねているが、会議の趣旨が異なるので、こちらは宇宙教育に限らず、普通科改革に係る学校教育全般の点検、評価の機会として参加していただいた。本支援事業の開始とともに、2 年前から年 2 ～ 3 回行ってきたが、今年度は 7 月に 1 回会議を行った。

所属・役職等	氏名
串本町教育委員会教育次長	吉村 崇
串本町教育委員会指導主事	津田 和昭
古座川町教育委員会教育課長	洞内 宏文
古座川町教育委員会指導主事	井上 孝弘
奈良県立大学 学長	尾久土 正己
和歌山大学教育学部 教職大学院 教授	富田 晃彦

表 3 運営指導委員

令和 6 年度第 1 回運営指導委員会

- ・日時 令和 6 年 7 月 3 日（水） 10:00～11:30 ※遠方の委員はオンライン参加
- ・出席者 委員：尾久土委員、富田委員、津田委員、洞内委員
本校関係者：校長、教頭、関係教諭、コーディネーター
その他：和歌山県教育委員会職員

・議事

最初に、本校事務局より「本年度の教育目標と計画」「ロジックモデルに沿った進行状況」「ループリックの作成と活用」「探究の 3 年計画」「学校魅力化評価アンケート（昨年度）の結果」等を報告した後、諸項目について意見交換を行った。このとき委員から上がった主な意見は次のようなものである。

- ・アンケート結果で、1 回目から 2 回目にかけて成長しているものもあるが、逆に下がっているものや全国や県の平均と比べて差がついているものがある。その理由は何か。分析を期待する。
- ・私が指導している大学生を見ていると、より高いところを目指す学生ほどアンケートの自己評価は下がることもある。一方、万能感に満ちて怖いものなしといった学生は実態よりもよい回答を返しやすい。結局は、一人一人を見て話をして、一緒に考えていくしかない。
- ・ループリックはそんなに難しくない。教員が常に生徒を見て、いろいろ励ましていることを文字に落とす作業に過ぎない。しかし探究は難しい。生徒の興味や個性に応じてどんな探究にしていくか、探究のテーマを生徒と一緒に見つけていくところに苦労がある。
- ・探究のまとめの論文は、生徒も大変だと思うが、論文の指導や評価をする先生も大変だと思う。探究の活動中は意欲も高いし見栄えもいいからどんどんできるが、最後にまとめるのは地味なので、大学生でも指導に苦労する。高 3 で 3 ヶ月もかけてやるようだが、もっと時間がかかるかもしれない。冊子ができたらぜひ私たちも目を通してみたい。
- ・アンケートの中で、子供ら同士のアドバイスがあまりない、という結果が気になる。小・中学校では今、授業のやり方がどんどん変わってきて、協働的な学びが主流になっている。子供同士で話しあったり、発表した人に意見を返すという授業をしている。高校で、もしまだ講義調

で教え込む授業が多いのだとすると、授業スタイルの変更でアンケート結果はだいぶ変わると思う。

- ・「総合的な探究の時間」や「地域探究」などの探究活動について、3年間のロードマップがあるのはわかりやすくてよい。教員も生徒もこれを共有して、方向性を確認しながらやるのはよい。
- ・「宇宙探究コース」に入学してきた生徒たちは、宇宙飛行士に関心があるようだが、現在世界では宇宙作業士も多く求められている。そしてその訓練は、水中に潜って無重力に似た環境で行う。その意味では串本は非常に適している。宇宙探究コースの生徒らにもダイビングの機会があれば面白いのではないか。
- ・現在、宇宙コースを持つ高校が全国に3校ある。同じように、宇宙と地域と高校教育を絡めて新しいことをやろうという難しさを抱えている。互いに交流を持ち、連携しながらやると何か素晴らしい展開が実現するのではないか。

③ 地域協議会

平成28年度から、学校魅力化プロジェクトを進める中で、生徒の全国募集を展開する本校を様々な角度から支援するために設置された地域組織。串本、古座川両町の出資によって運営され、両町の町長を会長、副会長とし、本校校長、両町議会、教育委員会、校長会、地域産業関係者等によって構成される。本改革事業が展開している3年間においても、これまでの体制が継続、さらに発展が図られてきた。今年度の構成員は表4のとおり。

支援の柱は「魅力づくり支援」と「全国募集支援」。特に「魅力づくり支援」については多額の町予算を投じて、「地域コーディネーター」の雇用と「公営塾（「くろしお塾」）」の運営を行っている（Ⅱ（8）で詳報）。「地域コーディネーター」は「高校と地域」「高校と行政」を繋ぐなど、学校授業の編成に大いに貢献している。「公営塾」は毎年国公立を含めた難関大学合格者を出しており、高校との両輪で学力向上に貢献している。このように町と県の垣根を越えて県立高校の「魅力づくり」を支援しているのは全国的にも珍しく、もちろん和歌山県内では「唯一」である。「コーディネーター」を配置しているのも県内では唯一串本古座高校だけである。

本年度は5月31日に第1回目の会議として、予算関連の協議、事業計画の報告を行い、第2回目以降は活動状況や計画等の報告を行った。

役職	所属	役職	所属
会長	串本町長	委員	串本町商工会長
副会長	古座川町長	委員	古座川町商工会長
副会長	串本古座高等学校長	委員	南紀串本観光協会長
委員	串本町議会 議長	委員	和歌山東漁業協同組合長
委員	古座川町議会 議長	委員	南紀森林組合長
委員	串本町教育委員会 教育長	委員	JA 紀南 串本支所長
委員	古座川町教育委員会 教育長	委員	JA みくまの 西向支所長
委員	串本町校長会長（小）	委員	串本古座高校同窓会長
委員	串本町校長会長（中）	委員	串本古座高校育友会長
委員	古座川町校長会長（小）	CN	串本古座高校地域協議会コーディネーター
委員	古座川町校長会長（中）	CN	串本古座高校地域協議会コーディネーター

表 4 地域協議会委員

④ コーディネーター

本校では、平成 29 年のグローバルコース設置に際し、地域と学校をつなぐ担当者として、地域コーディネーターを 2 名置き、人員は一部交替があったが、現在までこの体制を続けている。この 2 名は先述の地域協議会の採用による元自治体職員で、不定期の非常勤として高校職員室に席を置いている。グローバルコース等の学校設定科目で地域の組織・人と学校との連絡・調整にあたったり、地域と連携した諸活動の世話役をしたり、会議の主催や地域協議会の会計管理を行ったりしている。地域の人材や企業、名所などをよく知る元行政職員であるだけに、学校が地域と連携した魅力的な学習を展開するのに欠かせない存在となっている（Ⅱ（8）で詳報）。

また本校は、令和 4 年度に普通科改革支援事業の研究指定を受けたのに伴い、本事業を主に担当するコーディネーターを県教育委員会の採用で 1 名置いた。新しく開設した宇宙探究コースの運営にも対応できるように、宇宙や物理に精通した教育経験者を採用したが、任務は宇宙に限らず、学校全般に関して、資料整理や諸会議の設定・調整、探究活動に関する助言などである。また専門的知見から、学校内外での天体観測会を企画したり、生徒の活動を支援したりしている。

⑤校内委員会（未来創造委員会）

本校の改革事業を推進、管理する機関として、校長、教頭、各分掌長、学年主任、コーディネーターらで構成される事業推進委員会を校内に設置し、諸課題の検討を行った。特に今年度は、本校が「未来創造学科」としてスタートしたのに伴い、会議の名称も「未来創造委員会」と改め、会の趣旨も刷新して精力的な討議を行った。会議構成員は皆多忙であるため、なかなか全員がそろっての会議を設けることが難しかったが、何とか時間を割いて、今年度は下の日程で会議をもった。主な検討事項と合わせて下に記す。

- 第1回 4月15日 ロジックモデルに基づく前年度の進捗状況点検とプロセス評価
- 第2回 5月1日 ロジックモデルに基づく今年度の重点課題と具体的計画の点検
- 第3回 5月15日 ルーブリック自動作成ソフトの開発とその活用
- 第4回 7月19日 新しい探究発表会のあり方検討
- 第5回 7月25日 新しい探究発表会の具体的計画検討
- 第6回 9月19日 普通科改革進捗状況点検と指定校発表会 発表内容点検
- 第7回 12月2日 新しい探究発表会（中間発表会）の成果と課題振り返り
- 第8回 1月6日 総合的な探究の時間の振り返りと今後の進め方検討
- 第9回 2月19日 今年度の進捗状況点検とプロセス評価検討

Ⅱ．普通科改革に係る本年度の活動

（１）新学科の活動概要

未来創造学科は「地域探究コース」「文理探究コース」「宇宙探究コース」の３コースからなるが、生徒の諸状況を考慮し、今年度１年生は「地域探究コース」を３学級、「文理探究コース」と「宇宙探究コース」はまとめて１学級とし、計４学級編成で行った。これはⅠ（４）の授業展開表にも示すように、「文理探究コース」と「宇宙探究コース」は、１年次において履修科目のほとんどが重なるからである。従って、それら２コースの生徒達は、日頃、多くの授業や学校行事で一緒に取り組んだが、唯一、新学科の目玉科目「宇宙探究基礎」と「地域探究」の時間のみ、分かれて受講した。この時間は「宇宙探究コース」の７名が「宇宙探究基礎」を、もう一方の「文理探究コース」の生徒は「地域探究コース」の生徒と混ざって「地域探究」を受講した。なお、それらの科目は、授業時間以外にも放課後や長期休業中に、大学研究室訪問など諸活動に取り組んだが、それらの活動を通して各コースの「コースらしさ」が形成されていった。

（２）新学科における新設学校設定科目の実施状況

① 宇宙探究基礎

今年度から開設された「宇宙探究コース」には和歌山県内３名、県外４名の計７名の生徒たちが入学した。「宇宙を体感しながら楽しく学ぶこと」、「宇宙からの視点を持つこと」を掲げて自分の人生を切り拓く大切な力を身につけてもらう授業が始まった。

学校設定科目として宇宙に関する科目は、「宇宙探究基礎」「宇宙航空工学」「宇宙観測と利活用」「宇宙ビジネス探究」「衛星データ分析と活用」「宇宙と国際理解」から、３カ年で最大６科目履修できるように設定されている。

今年度はまず「宇宙探究基礎（２単位）」を開講した。対象は、「未来創造学科宇宙探究コース」１年生（必須）７名と「普通科グローバルコース」２年生（選択）９名の計１６名となっている。

内容は、「宇宙オリエンテーション」から始まり、「宇宙飛行士選抜試験体験」「水ロケットミッション」「宇宙実験を企画しよう」「地域資源を活用した天文プロジェクト」と盛りだくさんで、宇宙を体感できるコンテンツをフル活用したホンモノ体験が目玉となっている。



図５ 宇宙探究基礎オリエンテーション



図６ 宇宙飛行士選抜試験体験「ホワイトパズル」

年次	学校設定科目名	概要
1 年次	宇宙探究基礎	宇宙「で」学ぶスタイルを確立すべく、楽しみながら体系的に宇宙の基礎を学ぶ。
2 年次	宇宙航空工学	ロケットや航空機、人工衛星などが動く仕組み等、ホンモノ体験を通じて学び、科学的な視点を育成する。
	宇宙ビジネス探究	串本が最先端の宇宙産業の町となる可能性を秘めた地域の特色を踏まえ、宇宙を題材にしたビジネスを創出するための着眼点や手法を探究し、新たな価値を見出し、未来を切り拓くために必要となる能力を獲得する。
	宇宙観測と利活用（選択）	天文学に関する基礎知識から、簡易望遠鏡の製作・天体観測、天体写真撮影や地球惑星科学等、演習を通して体系的に天文学を学ぶ。
3 年次	宇宙と国際理解	宇宙トピックスについて日本語で学んだ後、それらに関する英文記事を読み、内容を理解した上でさらに深掘りして英語で宇宙を理解する。海外校との交流も実施する。
	衛星データ分析と活用（選択）	人工衛星の種類とその特徴から取得できる衛星データとその利用までを体系的に理解する。

表 5 未来創造学科宇宙探究コースにおける宇宙に関する学校設定科目

時期	テーマ	概要
1 学期	宇宙オリエンテーション	宇宙全般に関する基礎知識を学習する。
	宇宙飛行士選抜試験体験	ホワイトパズル、イライラボックス等、宇宙飛行士選抜試験を体験する。
夏休み	水ロケット合宿	和歌山県宇宙教育検討会議メンバーの東大・中須賀教授を迎え、缶サット甲子園に出場するミッションの成功度を上げるトレーニングを実施した。
2 学期	水ロケットミッション	水ロケットの工作、飛翔実験を実施、定点着地を狙う。
	立命館大学訪問	立命館大学びわ湖草津キャンパスを訪問。月探査研究を推進する佐伯教授の研究内容を聴講するなど、一日キャンパス体験を実施した。
	宇宙実験を作ろう	国際宇宙ステーション等、無重力環境で実施する宇宙実験を考案、発表する。
	天文学の基礎知識	和歌山県宇宙教育検討会議メンバーの和歌山大・富田教授を迎え、天文学の基礎知識に関する実験・実習を行った。
3 学期	地域資源を活用した天文プロジェクト	天然記念物「一枚岩」に天文に関するスライドを投影、地域への天文の普及啓発を行う。

表 6 学校設定科目「宇宙探究基礎」の内容

② 地域探究

今年度からスタートした「地域探究コース」「文理探究コース」の1学年の生徒は「地域探究」という学校設定科目を学んだ。「地域探究」では、地域を世界の縮図と捉え、地域をフィールドに自分の夢の実現策（プロジェクト）を実行すること、また、地域「を」学ぶのではなく、地域というフィールドを使って試行錯誤しながら、新たな知を創り出すプロジェクトを実施するというプロセスを繰り返すことで、生徒自身のものの見方の変容を促すことを目標に据え、取り組みを計画している。

授業を通して育成する生徒像は以下の2点である。1つ目は、真理を探究するための基本的な知識や技能を身につけ、それを自律的に深め続けられる生徒。2つ目は、地域社会の魅力や課題に対して当事者意識を持って前向きに楽しく学ぶことで対峙し、よりよい地域未来を創造するために思考し、判断し、図や表・プレゼンテーションソフトを用いて表現する事ができる生徒である。

令和6年度の地域探究及び令和7年度の総合的な探究の時間における取り組み計画を図7に示す。

学年	探究科目	単位数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	地域探究	2単位	ミッション①：space oneにYellを！		専門家に触れる①		ミッション②：地域をフィールドにして、自分の夢を確認せよ！				専門家に触れる②		ミッション③：地域をフィールドに、自分の夢を確認せよ！	
学年	探究科目	単位数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年	総探	1単位	ミッション③：地域をフィールドに、自分の夢を確認せよ！			まとめ	ミッション④：地域の素材を使って、新たな価値をつくり出せ！						まとめ	

図7 令和6年度の地域探究及び令和7年度「総合的な探究の時間」における学習計画・内容

令和6年度は、地域探究をインタビューやフィールドワーク、継続したプロジェクトに取り組むことができるように火曜日5,6時間目の2時間続きの授業として実施した。また、地域探究でのミッション③の継続として、2年次の総合的な探究の時間において引き続き実施することを予定している。地域探究の授業計画、テーマ・概要及び身につけさせたい力は表7のとおりである。

時期	テーマ	概 要	身につけさせたい力
1 学期	ミッション ①：SPACE ONE に YELL を	地域にある民間の小型ロケット打ち上げサービスを提供している会社からチャレンジスピリットを学び、応援するプロジェクト。生徒同士でチームを組み、地域の小中学生や地域の方々からメッセージを集めたり、動画や模型を作成したりする等、自分たちで何を作成し、どう伝えるかを考えプロジェクトマネジメントを経験しながら学ぶ。	・人間関係形成力 ・課題遂行能力 ・課題実践力
	専門家に触れる①	地域の各分野(起業・建築・水産・観光等)の専門家を招聘し、それぞれの分野における問題・問題の背景・解決策などをお話し頂き、グループで課題解決に向けて協議し、アイデアを創出し、模造紙を作成して発表する。	・課題発見力 ・傾聴力 ・発信力
2 学期	ミッション ②：自分の夢を確認する	1 学期のアイデアをベースに、自分の夢に関わりがある解決したい課題や謎を解明することを目指し、インタビューやフィールドワークを行い、それぞれが考えたプロジェクトを実施する。例えば、自分たちで人気が出るカフェの要件を調査し、文化祭においてその要件を満たしたカフェを出店したり、廃校を活用したイベントを行い、関係人口の創出に向けて取り組んだり、地域の自然保護に向けて取り組んだり等、30ほどのプロジェクトを実施した。また、ミッション②の取り組み内容を学校全体の探究発表会でポスターセッションやパワーポイントを作成して発表する。	・課題発見力 ・情報収集能力 ・情報発信力 ・プロジェクトマネジメント能力
3 学期	専門家に触れる②	地元役場のいくつかの課の代表の方にお越し頂き、役場として考えている地域課題、地域課題解決の事例や探究できる種をお話し頂き、そこから自分なりの課題解決に向けたレポートを完成させる。	・課題発見力
	ミッション ③：地域をフィールドに自分の夢を確認する	地元役場の方のお話を聞き、地域課題の再度共有とその中から生徒自身が解決したい課題、解き明かしたい謎について個人またはグループで問いをたて、仮説を立てながら実際に学校周辺の地域において、プロジェクトを行う。プロジェクトは、2 年次の総合的な探究の時間でも引き続き実施することとし、それぞれの教科で培うべき資質・能力を育成する。	・課題発見力 ・情報活用力 ・批判的思考力 ・自律的活動力 ・人間関係構築力 ・プロジェクトマネジメント能力 ・社会参画力

表 7 「地域探究」の授業計画、テーマ、概要、身につけさせたい力

生徒には、活動記録簿に探究の足跡を記録しながら、活動におけるループリックと照らし合わせながら、自分の現在地を把握するとともに、更なる高みを目指して取り組みを加速させることが期待できる。また、令和6年度においては、生徒73名に対して教員は6名で指導しており、担当を固定化することなく授業を進行させているので、記録簿やループリックの状況を確認することで、生徒一人一人の学びに伴走するための把握が容易になる効果も期待できる。

今年度開講した「宇宙探究コース」のカリキュラムは、有識者で構成されたコンソーシアム会議（兼和歌山県宇宙教育検討会議）で検討いただいた。その結果、宇宙に関する専門科目を最大で11単位、学校設定科目として設定するに至った。また、同会議ではカリキュラムの検討だけでなく、各科目の内容についても精査していただいた。

時期	テーマ	概要
夏休み 2024 年 7 月	水ロケット合宿	東京大学・中須賀教授による缶サットミッションの成功度を上げる水ロケット合宿を夏休み期間中に実施した。
2 学期 2024 年 11 月	天文学の基礎実験	和歌山大学・富田教授による天文学の基礎知識に関する実習として、離れた物体の視野角の測定から大きさを求める実験や、日時計の測定からその地点の緯度と経度を求める実験を 11 月「宇宙探究基礎」の授業中に実施した。

表 10 和歌山県宇宙教育検討会議委員による実施内容

[illegible]

表 8 地域探究活動記錄簿

	5	4	3	2	1
グループの 雰囲気	グループワークでは、積極的に発言し合い、雰囲気を作ることができた。	グループワークの際は、積極的な発言は出来ず、参加しただけで満足した。	積極的に発言する機会も多かったが、そのうち一度も発言出来なかった。	発言しなかったが、他者の発言に参加した。	積極的に発言者として、グループに力になった。
話し合い への参加	話し合いを始めることを躊躇しなかったが、議論やアイデアを出し、問題解決に貢献し合いで参加した。	議論に参加は出来ず、意見を言われるのを待った。	自分の意見が先行した。	話し合いで、意見を言う機会がなかった。	話し合いに積極的に参加した。
グループワーク への貢献	自分の役割をしっかりとやり遂げ、他者の役割の進行もサポートし、チームの目標達成に貢献した。自分の役割以外でもサポートした。	自分の役割はほとんどやり遂げたが、議論や意見に貢献できなかった。	自分の役割の達成はほぼできず、他者の役割に貢献できなかった。	役割は果たされたが、十分に貢献できなかった。	ほとんどの役割を達成できなかった。
スケジュール の管理	スケジュール管理や議題の進行管理など、スケジュールを管理する役割をしっかりと果たした。	スケジュール管理や議題の進行管理など、スケジュールを管理する役割はほとんどなかった。	スケジュール管理や議題の進行管理など、スケジュールを管理する役割はほとんどなかった。	議題の進行管理など、スケジュールを管理する役割はほとんどなかった。	議題の進行管理など、スケジュールを管理する役割はほとんどなかった。
課題達成	チームで協力して、目標を達成し課題をクリアした。課題達成に貢献した。	チームで協力して、目標を達成し課題をクリアした。課題達成に貢献した。	チームで協力して、目標を達成し課題をクリアした。課題達成に貢献した。	課題達成に貢献した。	課題の達成はほとんどできず、課題達成に貢献できなかった。

表9 地域探究におけるループリック



図 8 モデルロケットの代わりに打ち上げた水ロケット①



図 9 缶サットに搭載する基板



図 10 モデルロケットの代わりに打ち上げた水ロケット②



図 11 富田教授による講義



図 12 ものさしを用いた視野角の測定

（４）総合的な探究の時間の改革

① 各学年の活動

本校は、①聞く、読む、話す、書く力（コミュニケーション力）②他者との望ましい関係性を作る力（関係構築力）③自らの道を自ら切り開く力（自己決定力）をグラデュエーションポリシーとして掲げており、本年度には、これらの力を育成することと関連付けて総合的な探究の時間における３カ年の学習活動計画を再構築した。

総合的な探究の時間では、①地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付くことと、②地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けること、③地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、自ら考え、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てることの３つを目標とし、各学年の学習活動計画を構成している。

１学年では、地域の人との出会いを重視し、人の話を聞き、メモを取ることを原点として、文章を読み、文章でまとめて記事を書くという学習活動から、コミュニケーション力では欠かせない聞く、読む、話す、書く力を磨くこととしている。さらに、情報の収集と整理をはじめ、それらを有効に活用しながら目的に合わせて構成をデザインして、魅力ある情報を創造して表現するなどの活動から、情報活用能力を高めるとともに課題を発掘する力やエビデンスを示す力、解決案を導き伝える力など、質の高い探究学習を進めるうえで必要となる基礎力を身につけさせることを主眼としている。

また、１学年における学校設定科目の「地域探究」や「宇宙探究基礎」との関連性を強め、科目を横断して探究的な学びが深まるよう科目を編成している。

1学年 年間計画																			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
学 習 活 動	オリ エン テー シ ョ ン	探究の基礎・基本を学ぶ																	
		夢を描く		探究の基礎		教師の人物に迫る（教員新聞づくり）				職業新聞づくり		地域の魅力発見		描いた夢を紹介せよ！					
		自分を知る	ドリームマップ	「できる」 自分の を知る	なぞ 解明型 探究	新聞 記者から 学ぶ	質問を 練る	インタビ ュー	新聞を 読む	紙面の 構成	記事を書 く	自分理 解	職業理 解	自分の なりた い職	プレゼン テーシ ョン スキ ル	スライ ドを作 る	スライ ドで表 現	動画で 表現	仲間に 伝える
		聞く・読む・話す・書く・メモをとる・調べる・探す・伝える																	
グ ラ デュエ ーション		◎これからの社会を生き抜くための基本的な力としての、聞く、読む、話す、書く力（コミュニケーション力）を育成します。																	

図 13 １学年「総合的な探究の時間」年間計画

２学年では、探究の型を深く理解し、共通する課題を持つ４人以下のチームを結成して、「串本古座地域の素材を活かして、新たな価値を創造せよ！」というミッションのもと、プロジェクト型

の探究学習にチャレンジすることとしている。地域社会への還元活動を実施することを通して地域社会との関わりを持ち、地域の特徴やよさに気付き、課題を考察してプロジェクトを実践しながら探究的・協働的に学び、他者との望ましい関係性を構築しながらプロジェクトを実践し、社会に貢献しようとする実践力を育むこととしている。

また、チームで創造した新たな価値を、探究学習に関連するコンテストに応募することとし、他地域の高校生との交流の機会を設けている。

2 学年 年間計画																														
4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月								
学 習 活 動	プロジェクト①														プロジェクト②															
	プロジェクトミッション：串本古座地域の素材を活かして、新たな価値を創造せよ！																													
	課題設定		プロジェクトの企画と立案				プロジェクトの実行								評価・改善				中間発表会		課題再設定		プロジェクトの企画と立案				プロジェクトの実行			
	問題発見力・企画力・予測力・想像力・計画力・実行力・意思決定力・決断力・自己理解												観察力・考察力・分析力																	
	探究の型に沿う 問い・理由・答え 課題・主張・理由・根拠・結論						自己表現力・プレゼンテーション力・傾聴力・質問力・他者を尊重する 情報収集力・情報活用力・データ活用力・資料構成力												意思決定力・マネジメント力・目標設定力 決断力・運営力・調整力・修正力・協調性 独創力・協働性・責任感・先見力											
	コンテスト応募																													
グレード ショー リン		◎自己と他者を正しく認識し思いを伝え合える、他者との望ましい関係性を作る力（関係構築力）を育成します。																												

図 14 2 学年「総合的な探究の時間」年間計画

3 学年では、これまでの探究学習の総括として「高校生として、今、地域に還元できる取り組みを実行せよ！」をミッションとして、地域社会の課題解決に向けたプロジェクトをブラッシュアップしながら地域の中で活動することとしている。自ら考え、持続可能な社会を実現するために行動し、企画力や運営力、分析力、実践力を高め、自らの道を自ら切り開く自己決定力を育成することとしている。

また、3 年間の総合的な探究の時間における学びを論文の執筆で総括するとともに、これまでの探究学習活動を振り返り、自己の在り方や生き方を考察し、未来の目標の創造に繋げることとしている。

3 学年 年間計画														
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
学 習 活 動	プロジェクト②						探究の結び							
	プロジェクトミッション：高校生として、今、地域に還元できる取り組みを実行せよ！						プロジェクトを論文にまとめて評価する！							
	プロジェクトの企画と立案		プロジェクトの実行			評価・改善	プロジェクトの整理		最終発表会	論文を書く	探究学習の総括			
	問題発見力・企画力 予測力・想像力・計画力 実行力・意思決定力 決断力・自己理解		意思決定力・マネジメント力・目標設定力 決断力・運営力・調整力・修正力・協調性 独創力・協働性・責任感・先見力			自己表現力・情報活用力 データ活用力・資料構成力 観察力・考察力・分析力 表現力・計画力・修正力		まとめる・伝える・のこす プレゼンテーション力・傾聴力 質問力・内省力・目標設定力 自己決定力・キャリアデザイン力						
	コンテスト応募													
グ ラ デ ー シ ョ ン リ ン	◎自己のあり方生き方を考え、他者との折り合いをつけながら、自らの道を自ら切り開く力（自己決定力）を育成します。													

図 15 3 学年「総合的な探究の時間」年間計画

このような総合的な探究の時間の3カ年計画のもとで、生徒一人ひとりの興味や関心を最大限に尊重して、生徒の「おもしろい」、「楽しい」という衝動を引き出しながら、生徒自らが歩みを進める、生徒のための探究学習活動となることを念頭に置き、主体的な学びの浸透に努めてきた。

② 新しい探究発表会

総合的な探究の時間における探究活動や学校設定科目における探究的な学びに関する発表会は、これまでは学習成果発表会として学年末に実施していたが、本年度からは「探究中間発表会」として11月中旬に全校生徒で実施することとした。

総合的な探究の時間では、探究学習の節目となるとときに発表の機会を積極的に設けることとし、1年間で3回程度は学年単位での発表会を実施している。

探究中間発表会では、「総合的な探究の時間」や学校設定科目の「地域探究」「宇宙探究基礎」を中心とした日頃の探究的な学習活動の通過点として、一人一人が取り組む探究学習の概要や課題、成果、解決案などを発表し合い、人のアイデアが仲間を刺激し、新たなアイデアが創出されるというサイクルの創造を期待して協働的に学び合える機会としている。全学年が揃う中間発表会では、学年を越えた意見交換などを通して多くの他者の考えに触れ、新たな気づきを発見し、一人ひとりの探究の質に作用させることをねらいとしている。

また、探究的な学びは、探究サイクルを1周して終わるというものではなく、ブラッシュアップを重ねながら継続的に繰り返される学びであることから、その一連の学びの通過点として探究中間発表会を位置付けている。

この中間発表会において最も重視したのは、発表者の「おもしろい」や「伝えたい」という意志を最大限に尊重することであり、形式にとらわれずに個性が存分に発揮される発表とした。一人ひとりが考え取り組んでいる探究プロジェクトの必要性や重要性について、探究の目的や課題、展開、解決案等を示しながら、他者（聴衆）の「おもしろい」を引き出せる発表とすることをコンセプトとし、そのような発表から、他者（聴衆）からの感想や意見、質問など、生き生きとした意見が飛び交う交流の場とすることを目標として実施した。

企画や運営は生徒実行委員会の主体的な活動の機会と位置づけ、発表会の具体的な方針やコンセプト、スローガン等を設定するなどして、本校の特色を活かした独自の発表会を構成して企画、立案して開催した。





図 16 「探究中間発表会」の様子

(5) 授業改革を目指す取り組み

① 「Try Report」の発行と校内実践事例の共有

令和4年度には、コンソーシアム会議や運営指導委員会、事業推進委員会や教育課程検討委員会が開かれ、本校における本改革の基本方針が示された。また、令和5年度には「各教職員の理解の促進」を最重要課題として本改革を推進してきた。改革最終年となる今年度には「本改革の肝は、授業改革である」ことを再掲し、基本方針と授業改革を関連付けながら、教職員の意識の高揚と実践力の向上を図ってきた。

このように、段階的に改革を遂行するうえでは、基本方針に示されたことを具体化して細分化し、毎日の教育活動に落とし込めるのかということが重要となる。毎日の教育活動を実践するのは紛れもなく本校の教職員であること



図 17 Try Report : ベクトルをそろえるための情報共有

から、教職員に周知し、共通理解を深めることは改革推進の最重要課題である。そのため、全職員がチーム学校として一丸となり、ベクトルを揃えて、育成を目指す資質や能力を向上させる教育活動や授業改革が実践できる体制づくりに注力してきた。

その一例として、教職員への広報誌「Try Report」を発行し、本校の「普通科改革支援事業の基本方針」を教職員に周知して共通理解を深め、「授業改革」という実践行動に着手する意識の高揚を図ることを目的としている。

Try Report! チャレンジする教師の姿を見せる！
本気で探究する大人の姿を見せる！

Vol. 2

実践者 教科・科目 理科・生物基礎

探究課題

P・意図・ねらい（なぜこのような授業が必要だと思いましたか？）

①：情報化やAIの発展等による社会情勢の変化や、学習範囲の増大化。②：①に伴って生徒に求められる力の変化。③：入試問題の変化（思考問題の増加、知識問題でも丸暗記では点を取れないような意図的な出題方法の変化）。④：計算や複雑なイメージ先行による理解難れ、等により授業において求められる役割のうち、「知識を伝える」役割のフェードアウトが顕著。「考え方や学び方を教える」役割のフェードアウトが顕著。そのため、教科書の知識を応用して判断する力、および授業外でも生徒が自分で学ぶ力をつける授業法を模索している。

D・実践形態

「完全成活動が場所と場所である理由は何ですか？」「植物はどのように、またなぜそのような戦略をとるのか？」など、考えるための知識の提供は最低限に抑え、教師・生徒、または生徒・生徒間の対話に比重を置く授業を心がけた。また、実際に場所と場所が生じる場をうまく活用して授業法を模索している。

D・指導上の留意点（授業を実践するうえでどんなことに留意しましたか？）

①生徒に全てを丸投げせず、今日のテーマを科学的・生物学的に理解するために必要最低限の知識は時間を取って教えた。②イメージしやすいよう、実物を用意した。③どんなささいな感想でも理由を科学的・生物学的に検討するように指示した。④議論が深まるよう、生徒の仮説に対する反論や「その考え方なら～の場合はどうか？」など聞き取りを促し、補充や発展させた。

C・自己評価

個別最適化指数	50分のりがい指数	探究指数	ICT活用指数
1・2・3・④・5	1・2・3・④・5	1・2・3・4・⑤	1・2・④・4・5

C・感想

仮説や検証を踏まえずに結果だけを教える圧迫した授業よりも、時間当たり知識を教えられる量は減るが生徒の満足度や理解度、興味は高まるように思える。「楽しかった」で終わるのではなく、知識や考え、興味などのいろいろな身につけているか気になるところである。

A・改善課題（改善点があれば教えてください）

授業進度が遅くなるので、ポイントを取って実施することが必要。
また、授業準備・教材研究の時間が多く必要。

失敗はない！ 失敗しても果敢に取り組む教師の姿を見せる

図 18 Try Report :
授業実践のレポート①

う情報提供に努めた。

生徒の身近にいる大人として、教職員が、率先して失敗を恐れずにチャレンジする姿を生徒に見せることを頻繁に教職員に呼び掛け、新しい授業にチャレンジすることと、ポジティブで建設的な思考で本改革を捉えるメッセージを発信してきた。

授業時間数の確保や教職員の多忙化など、教職員研修などによる理解促進の場が設定しにくい現状の中で、時間を取らずに隙間時間に読めるよう配慮したことで、情報提供や理解促進に一定の効果が得られたのではないかと評価している。

人も、組織も、変わらなければならないタイミングで時代のニーズに沿った変容を遂げられるかが成長の鍵である。そのタイミングと対峙したときに、ポジティブな思考を持ち、建設的な思考で新たな価値を創造できるかで、その先の成果や成長が左右される。

今回の研究指定校の選出は、この組織がそういうタイミングであったということである。それを教職員がポジティブに受け止めて、建設的に変容を遂げられるかどうかで、本校の未来が決定する。そこへのアプローチが最も重要であったと考えている。

令和5年度には、校内で複数回の教員研修を実施し、教科は違えど、本改革で本校が掲げる主旨に沿って目指す方向を定めながら授業のあり方を協議し、一斉に授業改革に取り組める風土の醸成に努めてきており、少しずつ授業改革が実践されるようになってきた。

そこで、教職員一人一人の授業改革へのチャレンジをレポートで紹介し、取り組みへの努力を顕在化させ、教職員の自己有用感と本改革に参画する意識と実感を高めることを目的として発行してきた。

また、授業開発の観点やスキルを校内で共有しながら、教職員間で相互に刺激し合い、よりよい授業づくりへと高め合える環境を整備し、教職員の力量形成にも繋げることを目標としてきた。

授業実践のレポートのみならず、学校改革のビジョンや学級経営、生徒指導の方向性などに関わる情報も付け加えて、教職員の共通理解を促し、学校が一体となって改革を推進できるよ

Vol.1 to 10

Try Report!

Digest

「個別指導な学び」
「50分の学び」を探究！
なを発見！ ワクワク、楽しい！

生徒ともにもなる授業！ 授業満足度UP！

	科目	理科・化学・生物	理科・物理	理科・化学	理科・生物
VOL.01	テーマ	理科的な学び（生徒自身で考え学ぶ学び）を体験効果について			
VOL.02	テーマ	「知識の学び」から、「考え方を養える学び」へ → 一授業の学びの探究！	理科・物理	理科・化学	理科・生物
VOL.03	テーマ	数学	理科・物理	理科・化学	
		知らない、知らない知識を持つ子どもたちを驚かせることは 何となくできる。知らない知識を自ら身につけていくという学びの楽しさがある。			
VOL.04	テーマ	理科・物理	理科・物理	理科・化学	理科・生物
		「主体的な学び」ことが実践できる授業の個別指導の探究			
VOL.05	テーマ	地理・公民・社会	理科・物理	理科・化学	
		「社会を身近に感じさせ、興味を持たせること。自分自身で感じたい知識の深まりへと繋がります」 →授業の満足度を高める			
VOL.06	テーマ	理科・物理	理科・物理	理科・化学	理科・生物
		実験・実習など、「リアル」にパフォーマンスしたおもしろ知識			
VOL.07	テーマ	理科・化学・生物・生活	理科・物理	理科・化学	理科・生物
		授業での自由の量を上げて生徒達自身で発見していく授業を探究してみようが、 授業は楽しいかもしれない			
VOL.08	テーマ	英語・国語・音楽・1（食）	理科・物理	理科・化学	理科・生物
		自ら学ぶ楽しさを感じる学び			
VOL.09	テーマ	英語科/理科の英語・言語文化・1（食）	理科・物理	理科・化学	理科・生物
		個別・個別フォロアップを利用した学びの探究（イタリ） （教科→個別・フォロアップ→個別）の探究（イタリ） （教科→個別・フォロアップ→個別）の探究（イタリ）			
VOL.10	テーマ	理科・物理	理科・物理	理科・化学	理科・生物
		授業をアツに、自身の日常生活と生き生きと向き合い、今後を生きる力を養える授業の実践			

「授業を驚かす」 前授業の欠点を！

学習の発見と習得！

工夫された授業を受けられる喜びと発見を！

失敗はない！ やらなかったことに感謝する態度を養え！

VOL. 23

Try Report!

チャレンジする受験の大人を見せる！
本気で受験する大人の人を見せる！

「個別指導を学ぶ」と「50分のやりがい」、そして受験！

実習者	教科・科目	1年生	地域探究
-----	-------	-----	------

单元タイトル 地域の課題解決に向けての感想を述べよう！

● 单元の内容（この单元は、どのようなことを学ぶか？）

地域のからて調漢を預き、地域の地や課題を知り、それらの課題解決に向けた一歩を考察する

● 单元の目標・ねらい（この单元での学習目標は何ですか？）

地域内からそれぞれの学習で気づくべき専門的な知識や問いを捉え、課題解決に向けた自分なりの考察し、アイデアを提示する。その際、それを表現するために必要なこととを把握し、しる。

● 本単で達成するべき学習成果（先生・先生がこの单元でどのような能力・能力を高めたいと考えるのか？）

● 1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17/18/19/20/21/22/23/24/25/26/27/28/29/30/31/32/33/34/35/36/37/38/39/40/41/42/43/44/45/46/47/48/49/50/51/52/53/54/55/56/57/58/59/60/61/62/63/64/65/66/67/68/69/70/71/72/73/74/75/76/77/78/79/80/81/82/83/84/85/86/87/88/89/90/91/92/93/94/95/96/97/98/99/100/101/102/103/104/105/106/107/108/109/110/111/112/113/114/115/116/117/118/119/120/121/122/123/124/125/126/127/128/129/130/131/132/133/134/135/136/137/138/139/140/141/142/143/144/145/146/147/148/149/150/151/152/153/154/155/156/157/158/159/160/161/162/163/164/165/166/167/168/169/170/171/172/173/174/175/176/177/178/179/180/181/182/183/184/185/186/187/188/189/190/191/192/193/194/195/196/197/198/199/200/201/202/203/204/205/206/207/208/209/210/211/212/213/214/215/216/217/218/219/220/221/222/223/224/225/226/227/228/229/230/231/232/233/234/235/236/237/238/239/240/241/242/243/244/245/246/247/248/249/250/251/252/253/254/255/256/257/258/259/260/261/262/263/264/265/266/267/268/269/270/271/272/273/274/275/276/277/278/279/280/281/282/283/284/285/286/287/288/289/290/291/292/293/294/295/296/297/298/299/300/301/302/303/304/305/306/307/308/309/310/311/312/313/314/315/316/317/318/319/320/321/322/323/324/325/326/327/328/329/330/331/332/333/334/335/336/337/338/339/340/341/342/343/344/345/346/347/348/349/350/351/352/353/354/355/356/357/358/359/360/361/362/363/364/365/366/367/368/369/370/371/372/373/374/375/376/377/378/379/380/381/382/383/384/385/386/387/388/389/390/391/392/393/394/395/396/397/398/399/400/401/402/403/404/405/406/407/408/409/410/411/412/413/414/415/416/417/418/419/420/421/422/423/424/425/426/427/428/429/430/431/432/433/434/435/436/437/438/439/440/441/442/443/444/445/446/447/448/449/450/451/452/453/454/455/456/457/458/459/460/461/462/463/464/465/466/467/468/469/470/471/472/473/474/475/476/477/478/479/480/481/482/483/484/485/486/487/488/489/490/491/492/493/494/495/496/497/498/499/500/501/502/503/504/505/506/507/508/509/510/511/512/513/514/515/516/517/518/519/520/521/522/523/524/525/526/527/528/529/530/531/532/533/534/535/536/537/538/539/540/541/542/543/544/545/546/547/548/549/550/551/552/553/554/555/556/557/558/559/560/561/562/563/564/565/566/567/568/569/570/571/572/573/574/575/576/577/578/579/580/581/582/583/584/585/586/587/588/589/590/591/592/593/594/595/596/597/598/599/600/601/602/603/604/605/606/607/608/609/610/611/612/613/614/615/616/617/618/619/620/621/622/623/624/625/626/627/628/629/630/631/632/633/634/635/636/637/638/639/640/641/642/643/644/645/646/647/648/649/650/651/652/653/654/655/656/657/658/659/660/661/662/663/664/665/666/667/668/669/670/671/672/673/674/675/676/677/678/679/680/681/682/683/684/685/686/687/688/689/690/691/692/693/694/695/696/697/698/699/700/701/702/703/704/705/706/707/708/709/710/711/712/713/714/715/716/717/718/719/720/721/722/723/724/725/726/727/728/729/730/731/732/733/734/735/736/737/738/739/740/741/742/743/744/745/746/747/748/749/750/751/752/753/754/755/756/757/758/759/760/761/762/763/764/765/766/767/768/769/770/771/772/773/774/775/776/777/778/779/780/781/782/783/784/785/786/787/788/789/790/791/792/793/794/795/796/797/798/799/800/801/802/803/804/805/806/807/808/809/810/811/812/813/814/815/816/817/818/819/820/821/822/823/824/825/826/827/828/829/830/831/832/833/834/835/836/837/838/839/840/841/842/843/844/845/846/847/848/849/850/851/852/853/854/855/856/857/858/859/860/861/862/863/864/865/866/867/868/869/870/871/872/873/874/875/876/877/878/879/880/881/882/883/884/885/886/887/888/88

[illegible]

 19 Try Report :

図 20 Try Report : ルーブリックの構築と活用

② ルーブリックの構築と活用

本校がグラデュエーションポリシーに掲げている力を着実に育成できる教育活動へと転換を図るためには、授業改革が必要不可欠であり、その授業改革の中心に、授業内におけるパフォーマンス課題の開発とルーブリックを活用した評価の充実を位置付けて取り組んできた。

ペーパーテストでの評価にとどまらずに、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作など、多様な学習活動から多面的に生徒を評価できる授業とするよう授業課題の研究に努めている。さらには、学期末や年度末の総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて学習の過程における形成的な評価を行い、生徒たちの資質や能力がどのように伸びているかを生徒自身が把握できるよう評価規準や評価基準を生徒と共有し、指導と評価の一体化の充実を図ってきた。

本校では、グラデュエーションポリシーから生徒に付けさせたい力の評価規準や評価基準をルブリックに示して明確化し、授業ではそれを活用しながらパフォーマンス課題の充実に取り組み、形成的な評価も取り入れながら授業改革を実施している。

本校のルーブリックでは、グラデュエーションポリシーをもとにして 50 個の評価対象を選出した一覧表を作成し、その一つひとつの評価対象に S・A・B・C の 4 段階の評価基準を作成している。授業での学習目標にあわせて一覧表から評価対象を選ぶことで、ルーブリックと生徒の自己評価が一体となったシートが作成できる仕組みとなっており、短時間で簡単にルーブリックが作成できるよう配慮している。

評価対象や評価規準については、教科の特性等も充分に反映されるよう各教科で協議したのち、それを持ち寄って全教職員で検討を重ねて決定してきた。ルーブリックの本格的な導入は、今年度にスタートしたものであり、まだまだ改善の余地はあるが、授業改革の柱としてその役割を果たしている。

本校が生徒に付けさせたい力を着実に育成するためには、日々の授業において、それぞれの教科の特性を踏まえつつも全教職員がグラデュエーションポリシーの理解を深め、パフォーマンス課題を積極的に取り入れた授業の中で目的や目標を明確に示しながら指導の方向性を揃えて、それぞれの授業を展開することが求められる。

そのような授業においてルーブリックは、パフォーマンス課題における授業の目標や目的を明確に示すものとして、また、授業者と生徒を繋げて指導と評価の一体化を図り、さらなる授業改革へと導く重要な働きが期待できるものであり、グラデュエーションポリシーを具体化した教育活動における生徒を育成するための指標と位置付けて、ブラッシュアップを重ねて改良し、充実させていかなければならない。

ルーブリックを共有できる仕組みを作る
各教職員の理解促進への取り組み

評価対象の一覧表

作成シート

ルーブリックと自己評価表が完成

印刷シート

50個の評価対象を3観点に分けて整理

知識・技能のキーワードと評価対象の番号だけを入力

単元ルーブリックと自己評価表
各教職員の理解促進への取り組み

知識・技能はキーワード法で

3観点から、ひとつずつの評価対象を選ぶ

単元ルーブリック

自己評価表

自己評価の理由を書かせる！内容を促す！

図 21 ルーブリック作成シートと自己評価表

③ 国際交流の取組

本校では、地域や日本、ひいては国際社会における幅広い諸課題を探究する意欲を持ち、より良い社会を牽引していくことができる人材の育成を目指し国際交流の取組を実施している。生徒たちの国際観を育て、種々の国際大会にも参加できるような語学力や多元的な視点を培うために実施した取組例を以下に示す。

ア 日米草の根交流サミット大会受け入れ

日米草の根交流サミット大会は、日本とアメリカで交互に開催している約一週間の交流イベントである。日本とアメリカの市民一人ひとりが国境・言葉・生活習慣などの違いを超え、同じ人間として互いに心を通わせ合い、友情を深め合うことによって、日本とアメリカの良好な友好関係を築き上げていくことを目的に実施しており、今年度は9人からなる訪問団が本校を訪れた。本校では、生徒会役員をはじめ交流会に参加したい生徒を募り、生徒主体で出迎えから歓迎の挨拶を行った。また、日本文化体験として弓道や書道、茶道の体験（浴衣の着付け体験を含む）をクラブに協力をお願いし、実施した。

生徒は、流暢な英語とは言いがたいが、自分のことや串本町・串本古座高校について、そしてクラブ活動や体験内容について一生懸命説明を行った。この健気な姿勢や心を通わすようにおもてなしの気持ちを体現しながら交流会を実施したことで、串本町を訪問した参加者からは、本校での体験や生徒との交流が一番印象に残ったとの報告が寄せられた。



図 22 アメリカからの訪問団とクラブ生徒による交流

イ アジア・オセアニア高校生フォーラム参加

アジア・オセアニア高校生フォーラムは、和歌山県の高校生が、アジア・オセアニアの国・地域の高校生とともに、世界共通の諸課題や観光・文化等について意見交換し、グローバルな視野で物事を捉える力を養ったり、自らの考えを相手に伝えたりする機会を通して、国際社会で活躍できるリーダーの育成を図ることを目的に実施されている。高校生は防災や多様性、貧困等のテーマを探究し、その内容を交流している。

本校は、本フォーラムに毎年参加し、貴重な経験を得る機会を頂いているが、今年度は全体会の司会兼サポート生徒として参加した。分科会では貧困のカテゴリーに参加し、タイ、インドネシア、モンゴルなどの海外の高校生と、和歌山県内外の高校生徒とが貧困の解決策について議論した。貧困の問題を取り上げるとしても、各国での絶対的貧困率や相対的貧困率の状況や解決に向けた取組方法は異なる。そういった気づきのもと、若い世代も真剣に大きな問題に向き合っていることに大いに刺激を受けた。また、議論すべき所は議論しながらも、自由時間には和歌山城を散策したり、交流を深めるために夜遅くまで話しあったり等、まさに国を超えた交流をすることができた。



図 23 アジア・オセアニア高校生フォーラムでの交流の様子

ウ 岩手県立種市高校との交流

12月20日に岩手県立種市高等学校と英語を用いたオンラインの交流授業を実施した。これは、岩手県の種市高等学校が海洋教育に力を入れて取り組んでおり、同様の海洋教育に取り組んでいる本校と交流をしたいと依頼があり、実現した。

学校の授業の特色やクラブ活動について、プレゼンテーションソフトを用いながら英語で交流した。生徒にとっては他地域の高校生とのオンラインの交流を通して、学びの違いや気候の違いを感じることができ、大いに刺激を受けたようである。2時間の設定で交流したが、どちらの高校生からも、事後アンケートでは楽しかったので2時間は短すぎるという声が寄せられた。



図 24 岩手県立種市高校との英語を介したオンライン交流会の様子

エ スタanford大学連携講座 Stanford e-Wakayama 受講

Stanford e-Wakayama は、県教育委員会がスタンフォード大学と連携して提供する和歌山県の高校生向け同時双方向型オンライン遠隔講座である。スタンフォード大学専任講師や現地起業家等による講義、及びディスカッションやプレゼンテーションなどをオールイングリッシュにより実施している。本校からは今年度初めて2名参加し、県内の高校生と交流することでオーセンティックな英語を感じつつ、年間10回ほどの講座を受講した。毎回の宿題なども多くあり、大変ではあるものの、生徒たちは良い刺激を受けながら個人の最終プレゼンテーションに向かい、様々なトピックを読んだり意見を交換したりした。

(6) 改革推進校による本校訪問 交流

「研究実施報告書【第2次】」に一部掲載しているとおり、令和5年度においては本校教員が学校改革に取り組む先進校への視察を行ってきた。学校視察を経験した教員にとっては、先進的な取組の様子を目の当たりにすることで大いに刺激を受け、現地で情報収集し学んだことを本校の取組に還元できる貴重な機会として機能したと考える。令和5年度に視察を行った学校は表11のとおりである。

愛媛県立三崎高等学校	令和5年10月12日
宮崎県立飯野高等学校	令和5年11月28日
大分県立国東高等学校	令和5年11月29日
岩手県立大槌高等学校	令和6年2月23日

表 11 令和5年度に視察した学校の一覧

令和6年度については、予算の関係もあり本校教員が他の高校へ出向いて視察をする機会はなかったが、逆に「本校の取組を知りたい」と他県から視察に訪れる高校が増加した。そのことは、試

行錯誤しながらも着実にその歩みを進めてきた本校の取組が評価されているひとつの現れであると考え。これらの学校訪問や視察は、「学校をよりよくしたい」という、志を同じくする仲間が全国で頑張っていることの気づきや、普段出会うことのない他県の教員と意見交流をすることで自らの実践を振り返り、意見交流を通じて得た知識や経験を生かし、新たな挑戦を続けていく契機となった。令和6年度に視察を受け入れた学校は表12のとおりである。

三重県立昴学園高等学校	令和6年10月7日
青森県立大間高等学校	令和6年10月29日
宮城県立中新田高等学校	令和6年11月26日
長崎県立松浦高等学校	令和6年12月5日
兵庫県立須磨友が丘高等学校	令和7年1月14日
北海道立大樹高等学校	令和7年1月15日
岡山県 関西高等学校	令和7年1月21日

表12 令和6年度に本校視察に訪れた学校の一覧

また、令和6年9月26日には「新時代に対応した高等学校改革推進事業」指定校発表会が文部科学省講堂で開催されたが、その場においても本校の取組を発表する機会を得られた。発表時間と質疑応答時間確保のために発表校は4校に絞られることになったが、参加校の投票により発表校が選ばれることになり、本校が選出された。このことも、本校の教育活動が評価された証であり、苦勞しながらも取り組んできた一つ一つの試みが報われる一場面であった。

地域の多様な教育資源を活用した新たな普通科の設置に向けた我々の試みは、決して順風満帆に進んでいるわけではない。しかしながら、これら外部からの評価を今後の取組の糧としながら、更なる改善と工夫を重ねていきたい。



図25 新時代に対応した高等学校改革推進事業
指定校発表会の様子

（７）地域とつながる部活動

CGS 部（Community General Support：地域包括的支援部）は、クラブ活動を通して地域から学び、地域の活性化や地域の未来を考える活動を行うことにより、グローバルでローカルな視点を併せ持ち、課題解決に向けて実行できるローカルリーダーの育成を目指して取り組みを進めている。地域で行われる様々なイベントへの参加や地域の企業と協働した取組、主催者としてのイベントの開催など、地域社会と連携した取り組みを進めてきた。

また、CGS 部はその時々で地域のニーズや生徒の興味関心、担当教員の専門性を生かしながら固定化されないメンバーで組織された班活動としての様々な取り組みを行っている。以下に、全体及び班における活動内容を記す。

全員での活動：学校裏の避難路整備やカイロス※発射に係るビーチクリーンや出店を行う。また、航路標識協力団体に高校として全国で唯一指定されており、地元にある檜野埼灯台の保守・管理の活動をCGS部が担い、灯台内の整備や公開などを行っている。また、地域で開催されている「なんき朝市」でのボランティア活動や、地域の各種団体との共催という形で「串本ランタンナイト」や「はしぐいイルミネーション」等のイベントを開催した。また、生徒自身で開催場所の折衝、日程決め、協力団体への交渉などを全て行い主催するCGSフェスタを今年度は久しぶりに実施した。開催に当たり生徒自身の出身校である小・中学校へポスターを持参して広報したり、町内外の商店へのポスター掲示のお願い等も行った。実施当日は、自分たちが開発した商品の販売実習を行った。今後は、きのくに線の駅の活性化も視野に入れつつ、地方公共団体や大学などとも連携した取り組みを行っていく予定である。（※串本町ロケット発射場から打ち上げられるロケットの名称）

調理班：地域の特産品を使用した商品開発を行う。地域のイベントにおいては自分たちで開発した「ロケットまぜそば」「あがらのタレ付き焼き鳥」「キーマカレー」等を販売した。また、学校内の敷地で栽培した「なんたん蜜姫」を使ったスイートポテトや、ニンニクから「黒ニンニク」を作り、付加価値を高めて調理に使うなど商品開発を行っている。

保育班：串本こども園での保育体験やこども園の運営体験を週に一度、継続して行う。こども園や小学校での本校教諭による出前授業の際には、ロケット班と共に運営補助として活動する。また、和歌山市にある大学と連携し、地域における保育についての現状や課題などの学びを深めていく予定である。

ジオパーク班：地域のジオパークはもとより動植物の研究を行う。また、探究した活動をまとめ、全国ジオパーク大会への参加も視野に入れる。

ロケット班：缶サット甲子園出場やロケット甲子園、ドローンプログラミングコンテスト出場を軸としたスケジューリングを行い、生徒たち主体の活動として様々なイベントに参加した。生徒たちは参加する度に一回りも二回りも教員側の想像を超える成長を見せた。間違いなく今後の活動における糧となり、来年度はさらなる成長を見せるであろう。また、近隣のこども園や小中学校等への出前授業のアシスタントや、カイロスロケット打ち上げの際には、檜野埼灯台からYouTubeによる生配信を行う。

以上のようにC G S部のメンバーは、地域の企業や地域の方々に伴走していただきながら、探究的な学び、Try & Errorによる試行錯誤、プロジェクトを遂行する上でのプロジェクトマネジメントなどを経験している。この経験は生徒のみならず、教員にとっても学びを深める意味で非常に有意義である。今後は、本クラブでの活動を全校生徒に広げるための仕組み作りや学校体制の構築等につなげていきたい。



図 26 「宇宙シンポジウム in 串本」 本校の生徒が受付・司会・発表を行った



図 27 「缶サット甲子園」 缶サットを搭載した手作りロケット打ち上げ直前の様子

No.	日時	場所	内容
1	2024/06/12	那智勝浦町立下里中学校	宇宙出前授業のアシスタント
2	2024/07/04	串本古座高等学校	若田宇宙飛行士との懇談
3	2024/07/08	串本町立潮岬こども園	宇宙出前授業のアシスタント
4	2024/07/14-15	潮岬青少年の家	缶サット甲子園出場に向けた勉強会
5	2024/07/28-30	潮岬青少年の家	中須賀先生による缶サットミッション勉強会
6	2024/08/04	古座川町立高池小学校	宇宙出前授業のアシスタント
7	2024/08/07	串本古座高等学校	オープンスクールのアシスタント
8	2024/08/25	ホテルメルキュール	宇宙シンポジウムにおける受付・司会・発表
9	2024/09/05	串本町立串本こども園	宇宙出前授業のアシスタント
10	2024/09/07-08	ジオパークセンター他	缶サット甲子園出場
11	2024/09/16	潮岬青少年の家	宇宙甲子園ロケット部門出場
12	2024/09/21	ジオパークセンター他	空飛ぶクルマイベントにおける発表
13	2024/09/05-06	潮岬青少年の家	NASA ハッカソン出場
14	2024/10/19	旧養春小学校	ハロウィンイベント出展
15	2024/12/01	旧古座分庁舎(Sora-Miru)	串本宇宙フェスティバル出演
16	2024/12/18	檜野埼灯台	カイロスロケット2号機打ち上げ中継
17	2024/01/18	クオリティソフト社	ドローンプログラミングコンテスト出場に 向けた勉強会
18	2024/02/01-02	クオリティソフト社	ドローンプログラミングコンテスト出場

表 13 CGS 部ロケット班が参加したイベント

（８）改革を支える地域協議会と校内公設塾（くろしお塾）

和歌山県立串本古座高校は県内で唯一、町行政の支援を受けながら改革を進めている県立高校である。とかく縦割りが当たり前の現在の行政体制にあって、串本古座高校は串本町と古座川町から、県と町の壁を越えた支援を受けている全国的にも珍しい学校である。その特異性は「県内で唯一」という言葉に集約されている。

地域協議会の活動は、「地域コーディネーター派遣」という人的な支援と「校内公設塾（くろしお塾）の運営」という、魅力づくりの支援が２本の大きな柱となっている。

平成 28 年度から「地域まるとキャンパス構想」を謳い、地域の人、自然、産業などを活用した授業を展開し、地域に関心を持たせ、地域を知って、やがては自分の生まれ育った故郷で地域の担い手となってもらうことを理想として、地域に密着した授業を展開している。

「地域まるとキャンパス構想」を掲げ実践する以上、地域との連携と地域の協力は不可欠であり、その間を取り持つのが地域コーディネーターである。地域コーディネーターには行政のＯＢを起用し、これまで培ってきた経験や人脈を駆使して地域の人や事業所と高校を繋ぎ、授業への協力をいただけるよう要請活動を展開している。併せて新たな地域講師の発掘や協力事業所の開拓にも

取り組み、地域に密着した授業が継続して展開していけるよう、後方から支援をしていただいている。

その甲斐あって、「地域まるごとキャンパス構想」から9年、授業に必要な人材や事業所とのパイプはほぼ繋ぎ終え、電話1本で協力要請が出来るほど地域と高校の距離は近くなっている。

地域に根ざした授業の一例として、マリンスポーツにおけるダイビング事業組合員の「スキューバダイビング授業」、南紀食文化探究における串本町食生活改善推進協議会会員の「キンカンジャムづくり授業」、水産生物探究における近畿大学水産実験場の「チョウザメの生態探究授業」、町内各種事業所による「長期インターンシップ受け入れ」などが挙げられる。

課題としては協力事業所の減少や事業所職員の減少、講師の高齢化などがあり、今後は授業の工夫や見直しなどが必要になってくると思われる。

それに伴い「地域協議会」の高校への支援のあり方も、少なからず修正が必要になる時期が来るのではないかと考えている。

支援のもう1本の柱である「校内公設塾（くろしお塾）の運営」については、平成30年度に設置後、順調に実績を伸ばしている。

本校は地域性もあって、4年生大学進学が3分の1、短大専門学校進学が3分の1、就職希望が3分の1というのが概ねの進路割合であるが、いずれの進路であっても勉強がしたい時にいつでも勉強できる場所として、校内公設塾（くろしお塾）は生徒から好評を得ている。それは、令和5年度の年間利用のべ人数が1万人を突破するという数字からも計り知ることができる。

進学実績においても地域協議会発足当時、大学入試センター試験受験者が1名であったのが、今や国公立大学合格者が毎年5名前後でしており、令和5年度にはこれまでに最高の12名が合格するに至った。

ただし、くろしお塾の真価と目標は、国公立大学・難関大学合格の数字だけではなく、「勉強したい」「勉強しないといけない」との思いを持った様々な生徒のレベルアップを支援することを真の役割だと位置づけしている。「生徒の思いを支援する。」それがくろしお塾の真骨頂である。

なお、くろしお塾は「勉学支援機能」と「豊かな自分づくりを支援する機能」の2つの機能を有している。大学教授など各分野のエキスパートを招聘し、経験や体験に基づく講話をしていただく「豊かな自分づくりを支援する機能」＝「地域みらい学」にも力を入れている。基本的には塾生からのリクエストによって講座のテーマを決め、それを受けて塾頭とコーディネーターが講師との交渉を行うというもので、決して「押しつけ型」の講座ではなく、自分たちが希望したテーマでの開講であるので、講師先生の近くの席を確保する生徒も出るなど、熱心に話に聞き入っている。

講師の講話に約1時間。そして後半の30分に、講師を囲んでお茶を飲みながら懇談する機会を設けている。これは大学の教員や大学生と交流する機会の少ない地方のハンデを少しでも緩和するためにくろしお塾のメニューに取り入れたもので、受験生たちから「面接での自信に繋がった」と喜びの声を聞いている。この方式を私たちは「くろしお塾方式」と呼んでいる。

公営塾の課題としては、「人」、すなわち「塾講師」に知識と経験と熱意をもった人材を継続的に確保できるかどうかである。「人」が「人」を教えるので、この点が最も重要なポイントである。

このように行政からの支援は「地域コーディネーター派遣」と「校内公設塾（くろしお塾）」の運営が柱となっているが、それはとりもなおさず、行政も地域も「地域になくてはならない高校」であることをよく理解していることに他ならない。

最も近い近隣高校まで約 50km。こうした地理的条件もあって、多様な進路希望の生徒たちが混在する高校を維持し、盛り上げていくためには、高校現場・行政・地域の相互協力が今も今後も不可欠なのは言うまでもない。

ここまで順調に成果をあげてきた地域協議会であるが、振り返ればここに至るまで試行錯誤と苦労の連続であった。地域協議会立ち上げ当初から高校に拠点を置いて活動してきた地域コーディネーターの述懐録を、以下に掲載する。

〈コーディネーターの振り返り〉

平成 28 年、串本町役場の企画課長から「串本古座高校にコーディネーターとして行ってほしい」と要請があり、熟慮の結果、これを受け入れ高校で活動することになった。課長の口説き文句は「自分で事業を企画して実施できますよ。こういう仕事は好きでしょう！」だった。

こうした言葉に乗せられて「地域協議会のコーディネーター」として高校に派遣されてきたのが平成 29 年 4 月。高校での最初の面談では「思ったように何でもして、高校に風穴を開けて新しい風を入れてもらいたい。バックアップはする。」と校長から要望があった。併せて「教師の世界は思っているよりも視野が狭い。違った視点で高校全体の視野を広げてもらいたい。」という要望もいただいた。

コーディネーターの仕事は大きく分けて「高校と地域を繋ぐこと」と「全国募集をサポートすること」の 2 点。未知の仕事がここから始まった。

「地域まるごとキャンパス構想」を掲げて魅力づくりを進める串本古座高校にとって、地域と高校を繋ぐ役割は重要である。特に平成 29 年度から新設された「グローバルコース」では、「マリンスポーツ」「海洋環境」などの学校設定科目で、地域から講師を招いて授業を実施している。同じく学校設定科目の「串本デュアル」は地域の事業所に協力をお願いして長期の職業体験をさせてもらうなど、いずれも地域とは切っても切れない授業となっている。そのパイプ役となっているのがコーディネーターである。こうしたことからコーディネーターの仕事を一言で現すと「繋ぐ」という言葉が最適だと思っている。

こうした「繋ぐ仕事」は、前職が役場職員だったうえに現場での業務が多かったこともあって、「地域の人材」や「地域の資源」をよく知っていた結果によるもので、それ程苦にせずに仕事をすることができたのではないかと振り返っている。

ただし、やはり役場の仕事とは違う未知の領域なので、「繋ぐ仕事」をするにあたって、教育的な知識や教育的な意識をベースにして業務遂行をしていかなければならなかった点が少々戸惑った。もちろんそれなりにネットや雑誌、新聞などで「この分野」の勉強も人並みにしてきたつもりである。元行政職員と教員では育ってきた職場環境が違うため、「疎外感」を感じたりすることもあったが、校長先生の「バックアップするから、思い切りやってほしい」という言葉が支えになって乗り切ってきたことは言うまでもない。

振り返って「思い切りやった！」と思っているのは、校内公設塾を新設したことである。教職員 2 名と共に長野県白馬高校への視察から始まり、設置のための構想づくり、串本町、古座川町との協議、そして予算折衝、地域協議会での審議を経て、平成 30 年度に校内公営塾「くろしお塾」ができた。最初は定まった場所がなく、空き教室を転々とする状態であったが、県教委と高校の協力もあって敷地内に「くろしお塾」を置くことができた。併せて塾専任の塾頭を雇用して、「勉強したい時にいつでもできる」校内塾が設置されることになった。

その後、両町と相談しながら講師を 2 名体制としていっそうの充実に努めてきたが、その結果、国公立大学合格者数が飛躍的に伸び、今では「国公立大学合格者がいて当たり前」といった状況となっている。令和 5 年度の国公立大学の合格者数はこれまでの最多の 12 名まで上昇した。

このようにしてスタートを切った「コーディネーター活動」であったが、高校を取り巻く環境は刻々と変わり、「普通科」が「未来創造学科」になり、「アドバンストコース」「グローバルコース」「クリエイティブコース」が「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」となった。こうした教育現場の環境変化に合わせた「新たな繋ぎ」が必要とされているのが、現在のコーディネーターである。

これまでの経験をベースに、ますます「太いパイプ」を地域と繋いでいくのがコーディネーターに課せられた使命であると認識を新たにして、今後も「串本古座高校の魅力づくり」を応援していきたいと考えている。

（９）広報活動

「地域まるとキャンパス構想」をキャッチフレーズに掲げ、紀南地方の豊かな地域資源を生かした特色ある教育活動を展開している本校ではあるが、過疎化による影響を受けて生徒数は年々減少している。そういった状況を打破するため、平成 29 年度より全国募集を始め、令和 6 年度までに 35 名の生徒が和歌山県外から本校を目指し、入学してきた。

全国から本校を受検する生徒を増やすためには、和歌山県内はもとより、県外に向けても本校の存在や特色ある教育活動の内容を知

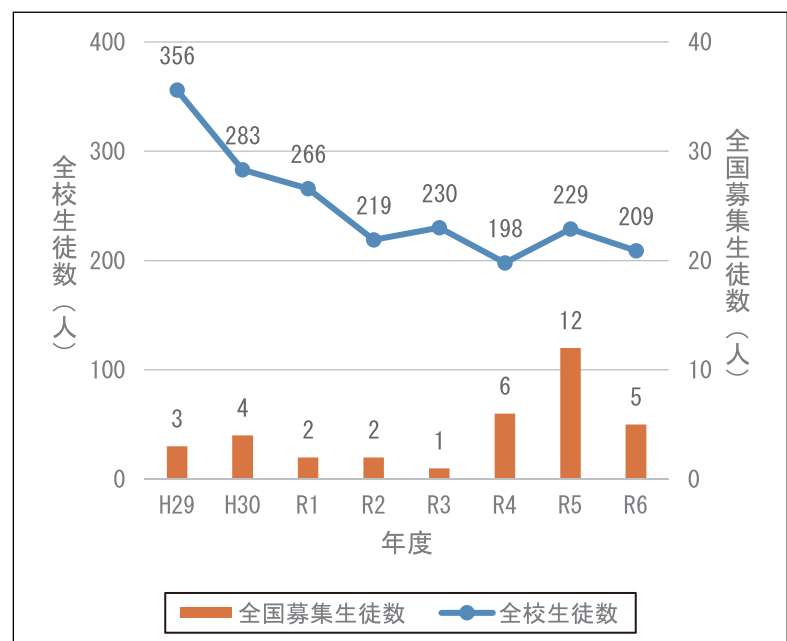


図 28 全校生徒数と全国募集生徒数の推移

ってもらう必要がある。そのため、情報発信の場として「一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム」が展開する「地域みらい留学」に参画し、日本各地で全国募集をしている 145 もの高校と力を合わせ、東京での合同説明会やオンラインによる進学フェス等で募集活動に励んでいる。

また、本校は令和 6 年度入学生より普通科から未来創造学科へと学科改編し、それに伴って公立高校としては全国初となる宇宙探究コースが新たにスタートした。「国内初の民間ロケット発射場が存在する串本町に位置する宇宙の学びができる串本古座高校」という切り口でメディアに取り上げられる機会も多く、地方紙や地方テレビ局のみならず、全国紙やキー局から取材を受ける機会も増えている。こういった報道各社からの取材を受けることは、結果として本校の広報活動につながっている。

さらに地元の子供たちに対しては、毎年秋に地域の中学校を訪問しての学校紹介の他、将来本校を目指す子供たちが少しでも増えるよう、小学校やこども園に出向いてロケット教室などの出前授業を行い、本校に対する興味を持ってもらうきっかけとしている。

その他、教員が管理する学校のホームページや公式 SNS での情報発信に留まらず、生徒自身による SNS 等を活用した情報発信に力を入れ、本校教育活動の紹介に努めている。



図 29 「宇宙探究基礎」の授業と取材するメディア各班



図 30 こども園でのロケット出前授業

Ⅲ. 活動の評価と今後の展望

(1) 学校魅力化評価アンケートの結果分析と生徒の変容

本校では、改革事業の成果を評価する手段の一つとして、「学校魅力化評価アンケート」を利用している（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社運営）。これを生徒対象としては昨年度と今年度に各 2 回ずつ計 4 回、教職員対象としては年 1 回ずつ計 2 回行った。

生徒アンケートは、86 の質問に、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」「2 どちらかというにあてはまらない」「1 あてはまらない」から 1 つを選ぶ。このうち、4 と 3 を肯定的回答と見なし、それらの回答数を全回答数で割ったものを「肯定的回答率」として注目した。表 14 は、全 4 回の生徒アンケートのうち、本校の教育目的に深く関係すると判断した重要質問項目（34 問）について、肯定的回答率の結果および簡単な分析を示したものである。

これを見ると、本校の特徴や生徒の変容がうかがえる。表で「成長率」と書いた項目は、新学科がスタートした今年度の 2 回目と 1 回目の差、つまりこの 1 年間の成長率を表している。1 回目は新学年の生活がなじんできた頃の 6 月中旬に行い、2 回目は探究活動がある程度進み、今年刷新した探究中間発表会（Ⅱ（4）② 参照）が終わった後の 2 学期末に行っている。つまり本校が学校改革に伴って本年度取り組んだ様々な教育活動が、どのような生徒の変容をもたらしたかを表す数字になっている。

差は 2 回目から 1 回目の値を引いているので、これが＋（プラス）の大きな数字になっているほど、1 年間でよく伸びた要素と見なせる。見やすくなるように、＋の大きな値ほど背景色を濃い緑色とし、逆に低下した－の大きな値には濃い赤色の背景色をつけた。例えば、【探究性に関わる学習活動】の「12.活動、学習のまとめを発表する」という質問項目は、濃い緑が付されていて肯定的回答率が 6.4% も伸びている。これはまさに、今年の新しい探究発表会の取組が、生徒に期待通りの変容を与えた結果と読み取れる。また分析項目としては、現時点での本校の立ち位置を知るために、全国平均との比較も行った。この「12.活動、学習のまとめを発表する」の質問項目は、全国平均と比較しても 5.9% 高い。それは単に今回の取組が、校内において生徒の成長をもたらしただけでなく、全国的に見ても効果の高い方法であったとの示唆を与える。

一方で、【探究性に関わる自己認識】の 3 項目は、1 年が経過して逆に肯定率が低下している。例えば「38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する」の項目は、肯定的回答が 3% 低下している上に、全国平均と比べても著しく低い。まさにこのような部分に本校の教育的課題が潜んでいることがわかる。

またアンケートは 2 年間に渡って計 4 回行っているので、様々な観点で比較分析することができる。学年ごとの結果をたどることもできるので、現高 2 生、高 3 生については、昨年度からの同一生徒集団の変容も分析した。そうすると、伸びた項目、低下した項目に、学年ごとの特徴が顕著に表れている。このことは、学校全体の取組や校風の他に、学年ごとの有り様や指導のあり方が、見える部分見えない部分の双方で、生徒に影響を与えていることを表している。

さらにアンケートは、表 14 に示した 34 の質問項目だけでなく、全部で 86 の質問項目がある。いずれも本校の現状を示す貴重なデータであるので、それらも含めて様々な角度から分析を行っ

た。例えば、今年度の成長率についても、全質問項目で値を比較し、それを伸び率の高いもの順に並べ替えると、本校の取組がどこに大きな成果をもたらしたかがよくわかる。表 15 の上位 3 項目「69.いま住んでいる地域の行事に参加した」「70.地域社会などでボランティア活動に参加した」「06.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」は、この 1 年間で 10%以上もの伸び率である上に、全国平均と比べても著しく高い。これは今年度新しく開設された「地域探究」及び高 2 高 3 の「総合的な探究の時間」の取組が、地域の課題に積極的に関わろうとした成果をそのまま表していると思われる。また本校は、従前から地域コーディネーターの精力的な活動の元、地域と連携した教育活動を様々に展開してきた。そのため、他校と比べても地域と結びついた活動がやりやすく、新しく地域と協働した何かをやろうとしたときにすぐに実現できる学校体制があると考えられる。

同様の並べ替えを、逆に低いもの順に行うと、今度は本校の課題がはっきりと見えてくる。表 16 の上位 2 項目「71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした」「37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む」は、いずれも学習に対する生徒の主体的な意識、意欲に関わる項目である。これが 1 年で低下していること、また全国平均と比べても低いことは、本校の課題として強く留意されるべき項目である。また、「82.普段のあなたの幸福度」や「66.この学校に入ってよかったと思う」という質問に、肯定的回答が低下していることは留意しなければいけない。これは新しい科目の取組のみならず、日頃の学校生活全般にその原因が潜んでいると思われるが、どこにその原因があるのか、強い意識を持って検討し改善しなければならない。

学校魅力化評価アンケート結果 肯定的回答率							〔4段階中3及び4の回答数〕／〔全回答数〕	
		回答年度	2023年度		2024年度		全国平均との差	
		回答時期	1回目(0714)	2回目(0312)	1回目(0619)	2回目(1221)		成長率
質問:	学年・回答者数		①207人	②114人	③198人	④186人	(④－③)	118364人
主体性に関わる学習活動								
	05.自主的に調べ物や取材を行う		57.0%	56.1%	64.1%	65.1%	0.9%	-8.2%
協働性に関わる学習活動								
	07.グループで協力しながら学習や調べものを行う		82.6%	74.6%	79.3%	79.0%	-0.3%	-5.8%
	08.活動、学習内容について生徒同士で話し合う		81.6%	71.9%	74.7%	76.9%	2.1%	-11.5%
探究性に関わる学習活動								
	12.活動、学習のまとめを発表する		65.2%	64.0%	65.2%	71.5%	6.4%	5.9%
社会性に関わる学習活動								
	16.日本や世界の課題の解決方法について考える		41.1%	43.0%	42.4%	49.5%	7.0%	0.3%
主体性に関わる学習環境								
	20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある		82.1%	78.1%	83.8%	84.4%	0.6%	3.8%
	21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある		91.3%	85.1%	91.9%	88.7%	-3.2%	-4.0%
	33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる		85.5%	75.4%	78.8%	82.8%	4.0%	-3.1%
協働性に関わる学習環境								
	22.人と違うことが尊重される雰囲気がある		80.2%	76.3%	84.3%	84.9%	0.6%	1.9%
	28.立場や役割を超えて協働する機会がある		77.3%	69.3%	75.3%	79.6%	4.3%	1.6%
探究性に関わる学習環境								
	17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある		81.2%	75.4%	81.3%	81.2%	-0.1%	-2.4%
社会性に関わる学習環境								
	25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる		84.5%	84.2%	80.3%	83.9%	3.6%	4.9%
主体性に関わる自己認識								
	39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる		66.7%	63.2%	60.6%	64.0%	3.4%	-9.0%
	40.目標を設定し、確実に行動することができる		52.7%	52.6%	52.0%	59.1%	7.1%	-2.1%
	47.忍耐強く物事に取り組むことができる		66.2%	61.4%	57.1%	68.8%	11.7%	-0.9%
協働性に関わる自己認識								
	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる		89.9%	85.1%	85.4%	86.6%	1.2%	-6.5%
	49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる		71.0%	61.4%	63.6%	69.4%	5.7%	-0.6%
探究性に関わる自己認識								
	38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する		63.3%	59.6%	62.1%	59.1%	-3.0%	-8.6%
	45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる		75.4%	70.2%	71.7%	73.1%	1.4%	-9.2%
	54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする		73.9%	69.3%	69.7%	70.4%	0.7%	-11.0%
社会性に関わる自己認識								
	57.私が関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない		44.0%	46.5%	37.4%	43.0%	5.6%	-5.9%
	59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる		67.6%	65.8%	61.1%	65.1%	3.9%	-6.4%
	68.自分の将来について明るい希望を持っている		66.7%	58.8%	58.6%	64.0%	5.4%	-9.3%
主体性に関わる行動								
	74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った		51.7%	55.3%	44.4%	55.4%	10.9%	-6.4%
協働性に関わる行動								
	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた		69.6%	64.0%	57.6%	59.7%	2.1%	-12.5%
探究性に関わる行動								
	75.授業の内容について、「なぜそうなのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした		54.1%	58.8%	50.5%	57.5%	7.0%	-11.2%
社会性に関わる行動								
	77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	-		71.1%	64.6%	68.3%	3.6%	6.5%
学習・その他								
	80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる		37.7%	39.5%	31.8%	39.2%	7.4%	-12.4%
	90.この学校を中学生にすすめることができる		76.3%	72.8%	77.3%	79.6%	2.3%	-1.2%
主体性に関するウェルビーイング								
	83.現在の日常生活に不安や心配事がない		61.8%	51.8%	50.0%	55.9%	5.9%	5.6%
協働性に関するウェルビーイング								
	66.この学校に入ってからよかったと思う		85.0%	82.5%	85.9%	82.8%	-3.1%	-5.3%
	84.学校の一員だと感じている		86.0%	84.2%	86.4%	82.3%	-4.1%	-4.9%
探究性に関するウェルビーイング								
	86.自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている		74.9%	60.5%	71.7%	69.9%	-1.8%	-8.2%
社会性に関するウェルビーイング								
	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい		57.5%	59.6%	53.0%			

表 14 学校魅力化評価アンケート結果【重点 34 項目】

学校魅力化評価アンケート 結果		実施年度		2023年度		2024年度		2024年度	
		実施回 月日		①7月4日	②3月12日	③6月19日	④12月21日	④ー③	⑤全国平均
質 問		回答者数(2023年度②は3年生卒業のため1,2年生のみ。その他は全校)		207人	114人	198人	186人	(成長率)	118364人 (国との差)
69.	いま住んでいる地域の行事に参加した			36.2%	53.5%	32.8%	47.3%	14.5%	36.1%
70.	地域社会などでボランティア活動に参加した			30.0%	40.4%	25.8%	38.2%	12.4%	25.3%
06.	学校外のいろいろな人に話を聞きに行く			34.3%	30.7%	37.4%	49.5%	12.1%	32.0%
47.	忍耐強く物事に取り組むことができる			66.2%	61.4%	57.1%	68.8%	11.7%	69.7%
50.	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ			58.0%	53.5%	51.0%	62.4%	11.4%	59.5%
74.	授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った			51.7%	55.3%	44.4%	55.4%	11.0%	61.8%
65.	将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい			44.0%	44.7%	37.4%	47.8%	10.4%	43.0%
10.	自分の考えを文章や図表にまとめる			58.9%	54.4%	51.5%	61.8%	10.3%	66.1%
44.	共同作業だと、自分の力が発揮できる			61.8%	58.8%	59.6%	69.9%	10.3%	69.4%
52.	私は、自分自身に満足している			49.3%	50.9%	42.9%	52.7%	9.8%	57.1%
61.	地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる			44.0%	50.9%	49.0%	58.6%	9.6%	53.8%
87.	自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している			73.9%	63.2%	64.1%	73.1%	9.0%	75.9%
32.	自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある			67.1%	67.5%	62.1%	71.0%	8.9%	57.1%
30.	人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある			72.9%	64.9%	68.2%	76.9%	8.7%	65.9%

表 15 学校魅力化評価アンケート結果【今年度の成長率】高い順

学校魅力化評価アンケート 結果		実施年度		2023年度		2024年度		2024年度	
		実施回 月日		①7月4日	②3月12日	③6月19日	④12月21日	④ー③	⑤全国平均
質 問		回答者数(2023年度②は3年生卒業のため1,2年生のみ。その他は全校)		207人	114人	198人	186人	(成長率)	118364人 (国との差)
71.	授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした			75.4%	68.4%	73.2%	66.7%	-6.5%	78.0%
37.	うまくいか分からないことにも意欲的に取り組む			73.9%	70.2%	71.2%	66.7%	-4.5%	77.1%
82.	普段のあなたの幸福度			63.3%	57.9%	65.2%	60.8%	-4.4%	71.3%
84.	学校の一員だと感じている			86.0%	84.2%	86.4%	82.3%	-4.1%	87.2%
21.	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある			91.3%	85.1%	91.9%	88.7%	-3.2%	92.7%
19.	地域から大切にされている雰囲気を感じる			82.1%	80.7%	85.4%	82.3%	-3.1%	81.0%
66.	この学校に入ってきたと思う			85.0%	82.5%	85.9%	82.8%	-3.1%	88.1%
38.	家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する			63.3%	59.6%	62.1%	59.1%	-3.0%	67.7%
58.	将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある			64.7%	65.8%	62.1%	59.7%	-2.4%	66.9%
26.	自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる			89.4%	85.1%	90.9%	88.7%	-2.2%	91.8%
24.	周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる			89.4%	87.7%	91.4%	89.2%	-2.2%	89.6%
86.	自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っている			74.9%	60.5%	71.7%	69.9%	-1.8%	78.1%

表 16 学校魅力化評価アンケート結果【今年度の成長率】低い順

(2) 今後の展望

令和4年度に普通科改革支援事業の指定をいただき、今年度が最終年である。初年度の校内組織の設置から始まり、これまでロジックモデルに沿って改革を進めてきた。今年度から普通科を未来創造学科へと学科改編し、探究活動を中心に据えた教育活動をスタートさせたことで、本校の普通科改革は本年度、実現に向けて走り出した。

改革を進めるにあたっては、本事業に対する教職員の理解促進に何よりも力を注いできた。最終アウトカムの本校の教育目標実現のためには生徒の行動変容が求められるが、そのためには各教職員の意識改革や行動変容が不可欠だからである。この3年間、改革に対する教職員間での共通理解や実践の共有のため、会議や研修の機会を多く設けてきた。教職員の間に改革への意識が少しずつ「自分ごと」として捉えられるようになってきたことで、探究活動や授業改善への取り組みも進み出した。研究指定終了後は、令和6年度に設置した「未来創造委員会」が中心となって取り組みを継続していく。評価の軸は「生徒の行動変容」である。本校では「多様な活動から多面的に生徒を評価できる授業改革」を普通科改革の軸に掲げてきた。そのために、パフォーマンス課題とループ

リック評価の充実に取り組んでおり、これらの活用をさらに促進することで、生徒の変容を図っていく。また、校内だけでなく、地域協議会や学校運営協議会との連携をさらに活性化することで学校外の視点も活かし、「評価と改善」のサイクルを確立しながら、本校が目指す教育に向けて改革を進めていきたい。

